昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和46年2月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.18
1971
february



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

株式会社 ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

私のひとこと

【第6回】

用具の点検、安全確保を
二度と起こすな不幸な事故

伊藤基記
日本協会指導委員長



さる十月二十一日午後五時十分、日本のバドミントン界にとって、思いもかけぬ、悲しいことがおこりました。

新潟・三条工高の講堂で部員が練習中、A君の振ったラケットのシャフトがハンドルから抜け、近藤組雄君の後頭部に突き刺さり、近藤君が永遠に帰らぬ人となってしまった事件です。

ご両親の身も世もない悲しみ、心ならずも友を死に追い込んだA君の苦しみ、先生方、県、市協会関係者のおどろきと苦悩、察するだに胸のつぶれる思いでした。

私も急拠、上京し、川端理事長らと今後のことを色々、協議しましたが、指導委員長としての責任を痛感、この紙上をかりて、心からおわび申し上げ、哀悼の意を表するしだいです。

今回の事故は、考えてみれば悪条件の上に悪条件が重なって起きたものです。しかし、用心していれば、当然、防げたはずのものでもあります。

このさい、あらゆる角度から安全性の確保について反省し、検討し、対策を立て、実施することだけが、今後、二度と不幸な事故を出さぬことにつながるのです。

用具そのものについては、用具委員会もあることなので、改善策は、そちらにおまかせするとして、ここでは、練習と指導法の面から、反省したいと思います。

第一はラケットの扱いと点検です。どんな用具でも長く使っていれば（使い方が悪ければ意外に早く）危険な道具に変化する可能性があります。

シャフトの接着は、現在の科学をもってしても、仲々、完全無欠とはまいりません。だれが、いつ、どこで使うラケットにしろ、使用の前後に必ず点検し、少しでもゆるみがあれば使うのをやめねばなりません。

強打で折れる、というのは、あり得ないことではないにしても、点検時になんでもなくて、いざ振ったらスッポ抜けた、などというのは、私達の経験でも聞いたことがない。接着部のゆるみについては、敏感の上にも敏感であってほしい。

第二に、万一、ラケットが折れたり、飛んだりしても、人を傷つけないよう、距離を置き、方向を考えて、素振りしてほしいものです。

現在、体育館での練習は、ほとんどの場合、他のスポーツと同居です。混雑の中で少しでも練習能率をあげようとすると、つい無理も生じ、注意を怠りがちになります。指導的立ち場にある人の戒心をお願いしたい。

もちろん、このほかにも危険が予想される状態や問題は色々あります。近藤君の霊を慰めるためにも、委員会は徹底的な検討をするつもりです。　合掌

＝今月号のダイジェスト＝

◆全日本総合選手権　アジア大会を一カ月後にひかえた全日本は十一月四日から八日まで東京で開かれた。

この大会は、九月のアジア大会選考会に続き、東京都協会が日本協会と協力して準備運営に当たった。

期日的な準備不足もあって、満足なPRはできなかったが、前年大会よりは入りもよく、関係者も、ひと息。少なくとも、協会をあげての体制が出来ただけでも、収穫といえる。

競技は、男子シングルスで小島一平（ヨネヤマ）が輝く五連勝を飾り、女子シングルスは竹中悦子（ヨネヤマ＝当時、新潟青陵短大職員）が、初めて湯木博江（日女体大）を破って、初の王座についた（P2～7）

◆全日本選手権グラフ　トップ・クラスの選手の表情を中心に組んだ（P17～20）

◆次期ユ杯も日本で開催　国際連盟の意向により、71～72年ユーバー杯インター・ゾーンとチャレンジ・ラウンドは、前回に引き続き、日本で開くことが内定した。（P26・告知板）

◆ボクソール（英）ら五選手がプロに転向　全英選手権で女子ダブルスに優勝、ユ杯で日本にもおなじみのボクソール、ウェットナールら男女五人が、このほど、プロに転向した。興行プロは、バドミントンで初めてのこと。（P27・告知板）

◆「バド界」に海外からも反響出る　中東の戦乱たえぬイスラエルの某クラブから、本誌あて「バド界を楽しんでいる」という便りがはいった。一方「せっかく送ってもらっても、日本語ではわからない」という手紙もあり、本誌では、次号から短い英文コラムをつける予定。（P14・北から南から）

◆本土選手を招待、沖縄で協会10周年大会　本土復帰まぢかい沖縄。本土から7組のダブルスを招いての大会は、改めて、本土と沖縄の実力差を感じさせた。例によって、比嘉君の便りでレポート。（P12～13）

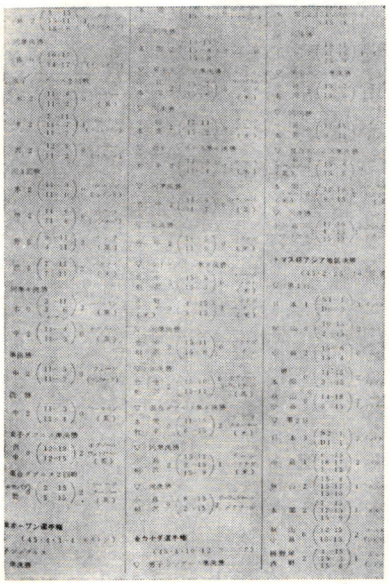
× × ×
表紙撮影　松井　亮磨
同　製作　小浜　正道
カット　おおば比呂司
写真提供＝フォート・キシモト、山本洋彦、山村徳太郎

昭和45年度

全日本総合選手権

小島シングルスに続く五連勝

史上初の金字塔　ダブルスは堺・栂野尾組



▲全日本プログラムから

45年度の全日本総合選手権大会（通算第二十四回）は十一月五日から八日まで、東京・目黒区立体育館と国立代々木第二体育館で開かれた。

インカレ終了後、間もないため、学生陣には精彩を欠く選手も多く、上位には社会人組が進出する結果となった。

男子シングルスは、小島一平（ヨネヤマ・ラケット）が秋山真男（自営）を一方的にくだし、輝く五連勝を達成した。

五年連続のタイトルは、全五種目を通じ、大会史上、初の金字塔である。

男子ダブルスは、堺栄一（カワサキ・ラケット）栂野尾昌一（ヨネヤマ・ラケット）の新コンビが初優勝した。シングルスの決勝を争った秋山・小島のコンビは、この種目四連勝の夢を破られた。

女子シングルスは新旧全英チャンピオン同士が対決した結果竹中悦子（新潟青陵短大職員＝当時）にガイ歌があがった。

竹中は相沢マチ子（同）と組んだダブルスも制した。シングルスは初タイトル、ダブルスは三連勝である。混合ダブルスは堺と天野博江（東海女短大教員）のものとなった。

（おことわり）全記録は巻末の「レコード欄」にあります。

◆男子シングルス

▼準決勝

小島（ヨネヤマ）2（15―5、15―4）0栂野尾（カワサキ）

秋山（秋山紙店）2（18―13、15―21）0本間（中大）

▼決勝

小島 2（15―12、15―10）0 秋山

……評……

決勝は同学（中大）しかもダブルスのパートナー同士という顔合わせとなった。スコアが一方的となったのは、もっぱら、両選手の〝疲れの差〟だろう。

小島は、男子随一のタフ・ガイ、しかも、練習が充分できる環境。ハルトノ（インドネシア）に勝つまでは止められない、とつねづねいい、一カ月後のアジア大会で主将もつとめる。前人未踏の〝五連勝〟もかかっており、意欲の点でも、秋山とちがっていた。

しかし、決勝に来るまでの秋山もまた、すばらしかった。とくに、準決での本間のあしらいかたは〝年期〟というものの重みを感じさせた。

インカレで足をけいれんするなどで、調子の出ているとはいえない本間が、ともかくも、ここまで進んだのは立派だが、準決では、秋山の〝受け〟のうまさの前に、ほとほと手を焼いたようだった。

それにしても、小島、秋山はともに日本の第一線の中では、もっとも小柄な選手。長身、大型、ホープなど、いろいろの形容詞つきで呼ばれる後輩連が、二人の〝トランジスター〟の前に、手もなく屈したのは、いただけない。

一回戦から通算して、34試合中、ゲーム・オールにもつれたのは、たった3試合。ほとんどは一方的試合だったということで、これも情けない。

◆男子ダブルス

▼準決勝

秋山（秋山紙店）小島（ヨネヤマ）2（15―17、15―5）0今泉（中大）岩下

堺（カワサキ）栂野尾（ヨネヤマ）2（15―15、15―4）0木戸（日体大）門間

▼決　勝

堺　2（15―2、15―9）0　秋山
梅野尾　　　　小島

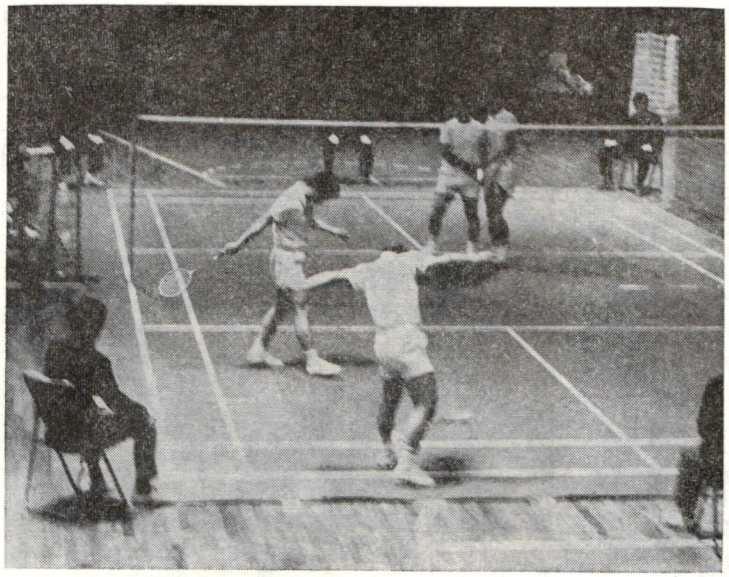
……評……　決勝はベテラン堺の好リード、長身から放つ梅野尾の鋭角なスマッシュ、まきこむようにして打つドロップが、小島・秋山の小兵コンビの4連勝を阻んだ。

第一ゲーム、スタートは互格だったが、中盤から堺がネット前でチャンスをつくり、梅野尾が強打。堺がバックから、うまくハーフ、ネットとつなぎ、梅野尾が、それをうまく中間でストップして、ネット前で決める…。これでは、ベテランの小島組も、ただ守勢にまわる一方。得点差は開くばかりで、まったく手が出ず、2点をもぎとっただけでゲーム終了。

第二ゲームは、立ち上がりから、秋山組がけんめいにスマッシュ、カットで攻めたが、決定打にならなかった。というより、堺組のレシーブの固さをほめるべきかもしれない。

前半は先行したものの、またも守勢へ。堺組は梅野尾が再三しかけたヤマが図に当たり、逆転に成功した。梅野尾はこれで大いに自信をつけたろう。今後の健斗を祈る。

（脇坂安隆）



▲まいった！　ベテラン小島組も完全にお手あげ　（山本洋彦氏提供）

竹中に初の栄冠　女子シングルス

複は竹中組が堂々、三連勝

◆女子シングルス

▼準決勝

湯木（日女体大）2（11―8、2―11、11―3）1　高坂（青学大）

竹中（青陵短大職）2（11―7、11―2）0　本間（日女体大）

▼決　勝

竹中　2（11―2、11―8）0　湯木

ユーバー杯保持国の日本一を決める試合にふさわしく、昨年と今年の全英チャンピオン同士の対戦という、豪華な顔合わせとなった。

アキレス腱切断の故障から半年ぶりにカムバック、九月のアジア大会予選で首位を占め、続く全日本学生の王座をも守った湯木。これに対し、これまでの公式試合で、一度も彼女に勝っていない竹中――。

試合のヤマは、第一ゲーム7―4と湯木がリードした時点にあった。ここで湯木が早く決めようと、あせって、ミスを繰り返したのに対し、リードされてかえって気分的に楽になった竹中が、強烈なスマッシュを連続きめて、このゲームを奪いとってしまった。

ここで湯木がじっくり攻めていれば、勝敗の帰すうはわからなかったと思われる。実力伯仲だけに、追うもの、追われるものの精神的な差が、ヤマ場に大きく響いた。

もっとも、湯木はインカレ直後であり、しかも〝足〟を気分的にかばいながらの試合であり、条件は悪かった。

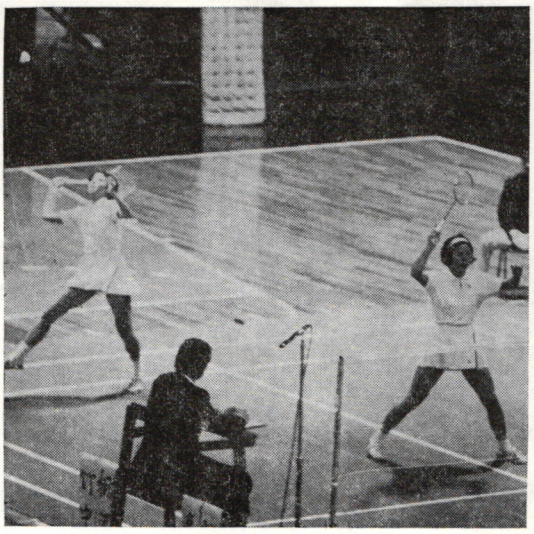
竹中は初の栄冠。コート上での〝心理的なヨミ〟が出てきたことは収穫である。

相沢がベスト4入り前に姿を消したのはものたりないが、上位には、ほぼ予想どおりの顔ぶれがならんだ。逆にいうとこの一年、変化がなかったわけだが、この中で高校生が三人、一試合づつ勝ったのは注目していい。



▲ライバル同士の胸のうちは……
（フォート・キシモト提供）

◀パワーで三連勝、相沢・竹中組（山村徳太郎氏提供）



高木組の巧技、通ぜず
若さのパワー（竹中組）にがい歌

◆女子ダブルス

▼準決勝

相沢、竹中（青陵短大職）2（15—4、15—3）0 柴山、高崎（東大阪短大）

高木、天野（東海女短大教）2（15—15、11—10）0 湯木、本間（日体大）

▼決　勝

相沢　竹中　2（17—15、14—3）0　高木　天野

決勝第一ゲーム、簡単に相沢組がとったあと、高木組の奮起で見ごたえのある試合となったが、高木組には決定打がなく、セッティングのすえ、相沢組にがい歌があがった。

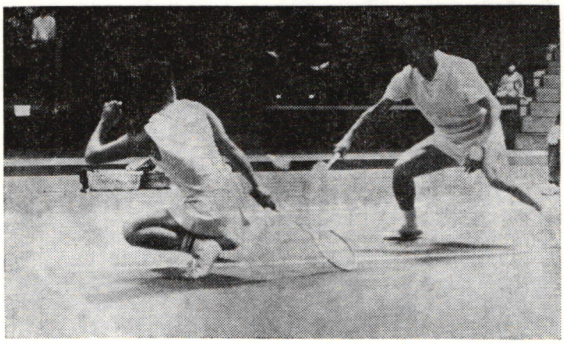
高木組は、タマくばりのうまさでは、さすがと思わせる場面が多かったが、練習不足もあるのか、パワーに欠け、また、脚力もおとろえが感じられた。

とくに、高木にかんじんのところでミスが出たのに対し、若いペアは竹中の要所に決まる強打が目立った。

準決勝で相沢組に対した、インカレ優勝ペアの柴山・高崎もパワーの差で敗れた。また、湯木・本間組は、サービスのまずさ（とくに第二ゲーム、追いあげて11オールとなったあと、本間、湯木が続けて失敗）が命とりとなって、ベテラン高木組にカブトをぬいだ。

いずれにせよ、女子ダブルスが相沢組の独走に終始したことは、ユ杯三連覇をねらう日本としては、いささか、ものたりない感じである。

▼「おねがい」「よしきた」堺・天野組の名コンビ（フォート・キシモト提供）



堺・天野組が初優勝飾る
混合ダブルス　粘りとスピード

◆混合ダブルス

▼準決勝

山本、高橋（北辰電機）2（18—15、13—15、15—11）1 杉田、杉田（辰野高教、コロムビア）

堺、天野（カワサキ、東海女短大教）2（15—15、15—6、3—0）0 清水、飯田（氷見高教）

▼決　勝

堺　天野　2（15—9、9—15、15—4、15—0）1　高山　橋本

準決勝、コンビを組んで十余年、夫婦仲のよい〝おしどり〟の杉田組、手首を痛め、しばらく第一線から遠ざかっていた、かってのチャンピオン高橋嬢と組んだ山本組の試合は、非常に白熱したゲーム展開で、本大会一番の好試合であった。

第二ゲームにはいって、しだいに、調子を整え出した杉田組は、後衛から両サイドへのゆさぶり戦法に成功、8—9から一気に追い上げて逆転、ファイナルに持ち込んだ。

第三ゲームは一進一退し、8オールから13オールのセッティングまでもつれた。しかし山本組は前衛高橋のストップ、スマッシュがうまく決まり、山本のねばりで上手にラリーをつないで、決勝へ進んだ。

一方、堺・天野組は、ともに典型的なダブルス・プレーヤーと評されるとおり、完璧といえるコンビネーションで、第一ゲーム7—6から、第二ゲーム12点まで20点を連取し、全く危げがなかった。続いての決勝も第一ゲームはラブで取ったから、通算すると35本連取、ちょっと珍らしいケースである。

決勝第二ゲームは気を抜きすぎたとみえ、サイドラインを割るアウトが多かったが、大局的に見て、影響はなかった。

混合ダブルスは男子のねばりと、女子のスピードの差が試合を左右することを痛感させられた。

（権田正一）

全日本の舞台うら

プロだけはがんばったが……

PR対策に〝カベ〟だらけ

〝役員不在〟〝実力は世界一・人気は最低〟などと、一部マスコミに、さんざんたたかれた前年度大会。正直いって、協会には返すことばがなかった。

それに奮起？したわけでもないが、広報委スタッフは「今度こそ」と張り切って準備に始動した。

四月初めには、早くも第一回の顔合わせ。もちろん、議題は「いかにして多くの観客を動員するか」だが、競技自体の知名度が低く、強烈にアピールするものが不足している現段階では、それを補なう〝なにか〟を用意しなければならない。その〝なにか〟をさがすことが、広報の使命だった。

記者クラブの方々の、ざん新なアイデアなども借りて、その結果、出てきたのが、例えば、

◎写真パネル、歴史の図説、用具の変遷発達などの展示を会場で行なう ◎アマチュア・デザイナーによるウェアのショウ ◎ママさんバドミントンの模範演技 ◎音楽とバドミントンの共演――

なかには、具体的に話を進行させたものも、いくつかあったが、行きつくところ、予算、人手と時間、アマ問題などのカベにぶつかり、陽の目を見るに至らなかった。

ついでながらいうと、プロ、ポスター等は〝独立採算〟制がとられたため、製作費、広告料の差し引き計算に頭を悩まし、最終的にはコピーを利用したポスターが唯一の宣伝媒体となったのだった。（秦 浩）



▲Badmintonのnが抜けたプログラム表紙

た。

当初意気ごんだわりには実績があがらなかったのは残念であり、近い将来には必ず、すばらしい企画にとんだ大会を実現させるべく、努力したい。

ただ、観客動員では、東京都協会の協力を得て、都内の中、高校に案内と入場券を配布したし、プログラムだけは、いささか自慢できるものができたと思う。

プロには年度主要大会記録、ア大会代表の写真入り解説、競技手引き、豆知識などを豊富に盛り込み〝見て読んで、楽しくタメになる〟ものだった。ところが〝あっと驚くタメゴロー〟表紙のバドミントンという英字が一字抜け（**写真参考**）またもとんだ〝失点〟を残してしまったのだった。（秦 浩）

〝読者への挑戦〟に回答



本誌第14号、全日本教職員大会の〝こぼれ話〟の一環として「読者への挑戦」と題する一文を掲載した。

これについて、鳥取県境港市京町**154**・田上義美さんから回答があった。

まず〝挑戦〟を、もう一度、のせると

――男子ダブルスのとき、主審がサーバーのオーバー・ハンドを宣告したが、それよりも早くレシーバーがラッシングを開始していた。

サーバーは「フォルトをしたのは、自分だけではない」と主審にアピールした。主審は判定に困り、審判長にその是非をたずねたが、諸君ならどうしますか――

これに対する田上さんの回答は、つぎのとおり。

「主審が確認したのは、サーバー側のオーバー・ハンドだけ。レシーバー側のラッシングは確認していない。だから、サーバーが主審にいくらアピールしても通用しない。主審の判定でよいと思う」

さて、これについての日本協会の審判委員会は、つぎのように回答している。

「**14**号の文の中で〝それよりも早く、レシーバーがラッシングを開始していた〟とあるから、もし主審がこれを確認したものであれば、競技規則第**17**条**3**項によって、レットとすべきである。

また、もし、レシーバーのフット・フォルトを主審が確認していなければ、フォルトを宣すべきであろう」

この回答を逆に考えると、どうやら、問題の出し方が、すこし、あいまいだった、といえる。つまり、レシーバーのラッシングを主審が確認していたかどうか、説明していないからだ。

したがって、田上さんの回答は、それ自体では正解といえるわけだ。田上さんには、近く粗品を贈ります。

ベテラン陣の健闘目立つ

—総評—

日本協会
競技委員長
相場清一

アジア大会を一カ月後にひかえてのメーン・エベント。白熱した好試合と、若手組の活躍を期待したが、少なくとも後者に関しては、いささか、もの足りぬ感があり、反面、社会人大会同様、ベテラン組の熱気が、むしろ目立った。

競技面を、まず、種目別に見渡してみる。

男子シングルスは小島が執念で輝く五連勝を達成した。小島の努力精進ぶりは、他の選手の模範とするに足るものだが、もっとも、学生陣が男女を通じてパッとしなかったのは、全日本学生から今大会まで、ほとんど休むヒマのない、強行日程だったことに、大きな理由がある。

アジア大会をひかえ、日程が〝押せ、押せ〟になったためで、来年からは、もちろん、こんなことはないはずだが、いずれにしろ、学生陣には気の毒だった。

ダブルスには、いぜん〝うまさ〟を感じさせるペアが少い。

もう一つ、秋山が準決勝で学生界のナンバー・ワン本間を、一方的に破った、老練な試合運びもまた、特筆すべきものである。

女子のシングルスでは、竹中が調子の出ていない湯木を得意の強打でくだした。全英に続くタイトル獲得であり、なお一層の前進を待ちたい。相沢は高坂に敗れた。体調のつくり方を、もう少し考える必要がありそうだ。

ホープ柴山は、ネット前のプレーの弱点を、早急に克服しなければならぬと感じた。

同一ペアで練習を長く続けることがほとんどできない、日本の宿命のせいもあるが、今後、大きな国際試合で勝っていくには、なんとしてでも、いいダブルスの育成強化が必要である。

男子では、堺のタマのつくりが一番、光った。梅野尾には、まだ勉強の余地はあるが、ともかくも、このペアがタイトル獲得に成功したのは、やはり〝高さ〟ということだろう。

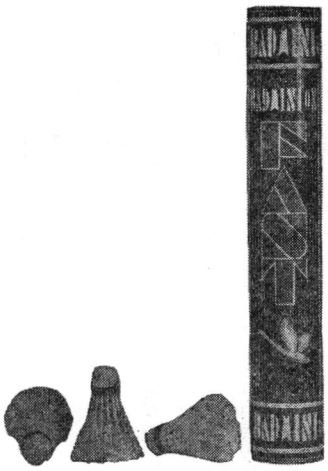
女子ダブルスは、老練の高木・天野組が、文句なく〝ダブルスらしいダブルス〟だった。たしかに、残念ながら、もう、パワーとスタミナがない。相沢・竹中組は、守備面で、もうひと工夫ありたいと思う。

混合は、ダブルスのカンどころを熟知している堺・天野組に当然のごとく王座が輝いた。年齢合計71歳という杉田夫妻の健闘も、見事だった。

運営面で一つ二つ。本大会では、四十五年度の競技委員会指定球、ヨネヤマ、サンバタ、NBI、ジャワの四種を使った。このシャトルに関し、選手の中には、良否をいっているものもいたようだ。

しかし、例えば海外での試合に、必ずしもRSLが出るとは決まっていない。どんなシャトルにでも、対応できるようになってもらいたいと思う。また、シャトル交換を選手同士が、主審に無断でやるようなことは、厳に注意してほしい。

本年度から東京都協会が大会を主管、有意義に終ることができたのはありがたいが、PR不足か、今回もスタンドを満員にできなかったことは残念だ。

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー

ファスト印シャトル
コック製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7-28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

◈ 歴代全日本総合選手権者 ◈

年度	開催地	男子シングルス	男子ダブルス	女子シングルス	女子ダブルス	混合ダブルス
22	東京	岡　淳一	広田　敏秀 藤井　光男	中村　たき	川俣千枝子 中村　たき	森　勇 岡　広子
23	横浜	岡　淳一	広田　敏光 藤井　光男	吉田とよ子	川俣千枝子 中村　たき	E・エマール 川俣千枝子
24	金沢	岡　淳一	岡　淳一 相馬　万吉	吉田とよ子	吉田とよ子 田村知江子	山田　康久 田村知江子
25	東京	岡　淳一	岡　淳一 岡　道明	遠藤　文子	遠藤　文子 小林　歌子	山田　康久 田村知江子
26	奈良	広田　敏秀	広田　敏秀 岡　道明	登　悦子	堀江　綾子 保田　久子	渋谷　弘敏 小島　信
27	新潟	広田　敏秀	吉原　秀雄 藤井　昻一	吉田　光子	遠藤　文子 荒川とみ子	渋谷　弘敏 小島　信
28	東京	望月　文雄	佐藤　芳朗 山崎　茂高	荒川とみ子	小林　歌子 荒川とみ子	渋谷　弘敏 小島　信
29	高松	上田　益弘	片石　兼敏 加藤　正則	大川　良子	大川　良子 藤田　光子	上谷　茂己 小沢　良美
30	東京	片石　兼敏	片石　兼敏 加藤　正則	権田　節子	戸田　寿子 小林　柱子	小飼　栄一 本庄　純子
31	横浜	佐藤　芳朗	片石　兼敏 永井　栄一	横井キヌエ	大川　良子 小林　歌子	石原　利道 戸田　寿子
32	東京	永井　栄一	永井　栄一 並木　伸裕	田島外茂子	田島外茂子 宮川ツヤエ	
33	長野	佐藤　芳明	永井　栄一 並木　伸裕	田島外茂子	田島　玲子 高島　洋子	貝戸　肇 諸田みや子
34	横浜	板垣　隆房	山田　善康 中村　智	田島外茂子	田島外茂子 山崎紀久子	北島　克英 有木とみ子
35	東京	小宮　好雄	沢田　力 森　晃一	橘　美智子	高橋　奉子 長野　文子	毛利　清志 根岸　純
36	京都	小宮　好雄	沢田　力 森　晃一	秋山　文子	木村　政子 横山　満子	杉田　博 杉田　良子
37	横浜	宮永　武司	沢田　力 森　晃一	高木　紀子	高木　紀子 諸田みや子	星野　忠男 有木とみ子
38	岐阜	渡部　紘一	鈴木　幸春 東条　義明	横井　文子	有木とみ子 三原　弘美	星野　忠男 有木とみ子
39	会津若松	宮永　武司	堺　栄一 宮永　武司	高木　紀子	高木　紀子 天野　博江	星野　忠男 有木とみ子
40	秋田	秋山　真男	堺　栄一 宮永　武司	横山　満子	高木　紀子 天野　博江	東条　義昭 横井　文子
41	東京	小島　一平	堺　栄一 宮永　武司	高木　紀子	高木　紀子 天野　博江	小宮　好雄 上野　明美
42	横浜	小島　一平	秋山　真男 小島　一平	高木　紀子	高木　紀子 天野　博江	板垣　義憲 太田　節子
43	東京	小島　一平	秋山　真男 小島　一平	高橋とも子	相沢マチ子 竹中　悦子	鈴木　健二 有木とみ子
44	東京	小島　一平	秋山　真男 小島　一平	湯木　博江	相沢マチ子 竹中　悦子	鈴木　健二 有木とみ子
45	東京	小島　一平	堺　栄一 栂野尾昌一	竹中　悦子	相沢マチ子 竹中　悦子	堺　栄一 天野　博江

東大阪短大勢の優勝をたたえる



▲これ以上，笑ったら死にそう?! 優勝の喜びは，とりあえず，お茶の乾杯で

観戦記

"特訓"がつくった気力

圧巻、徹底的な粘りと足の強さ

全日本学生選手権で東大阪短大が女子団体で初優勝した（前号既報）。このチームは全員が一年生。準決勝で日女体大、決勝で日体大という強豪を連破しての栄冠であり「やれば、出来る」という自信を、彼女たち自身にばかりでなく、満天下のバドミントン愛好者に与えた点で意義が深い。

この東大阪勢の戦いぶりを、前ユ杯コーチの毛利清志氏（山陽学園高校教諭）が本誌に寄せてこられたので、ここに披露した。

準決勝での日女体大戦が事実上の決勝であったといえる。

第一複の柴山・高崎組（東大阪）対湯木・本間組（日女体大）の試合はまさに圧巻であり、またその勝敗が団体の勝敗を大きく左右したといえる。

内容的には攻めても、守っても柴山組がわずかに上回り、特に勝負時の第三ゲームの後半は湯木組が攻めあぐんでドロップやクリヤーにきりかえては逆襲されるケースが多かったように思う。

計画的にドロップやクリヤーで攻めた第二ゲームとは異なって、スマッシュで攻めてもコート一杯にリターンされるためのチェンジ・オブ・ペースであったことが湯木組の敗因であり、一方柴山組のディフェンスがそれほどに好調であったといえる。

湯木組がドロップやクリヤーにきりかえるのでなく、スマッシュ自体の角度やコースに変化をもたせた場合には、勝負の行方は、逆であったかもしれない。

第二複の浦口・谷沢組（日女体大）対石崎・及川組の対戦は第一ゲーム、セッティングの末浦口組がとり、第二ゲームではベテラン浦口が、パートナー谷沢のスマッシュ力をうまくいかし、秀でたアンティシペーションによる早いテンポで、若い石崎組を翻弄してタイ・スコアとなった。

第一単の湯木対及川戦は、複より更に不調に輪をかけた湯木の脚が動かず、サウスポー及川のドロップ・ショットに悩まされながらも、貫禄で要所をしめて押しきった。しかし、オーダーの上からは湯木をどう逃げるかという点で東大阪が成功したといえる。

第二単の柴山対浦口戦はやや凡失が目についたが、第一複に次ぐ内容の濃いものであった。浦口の巧妙な攻撃に対し、柴山のネバリと堅実な守備が、相手の決定打をエラーに誘い、熱戦の末、若い柴山がわずかに打ち勝った。かくして、文字通り一進一退のタイ・スコアとなり、第三単にすべてがかけられた。

さて、各チームの期待を双肩ににになっての高崎（東大阪）対本間（日女体大）戦は全くあっけない一方的な試合で高崎が勝った。

複のときから不調にあえいぐ本間は勝負の責任がかかってきたためか、目を覆いたくなるような萎縮ぶりで足が動かず、シャトルを追ってラケットに合わせるのが精一杯であったのに対し、高崎は全く逆に軽いフットワークに終始し、先手先手と追いまくって、小気味良い程の出来ばえであった。

従って、観戦している側から

は、試合開始後の数イニングでその勝敗がはっきりと予想できる程であった。

連勝記録を堅持しようとしてかたくなった日女体大に対し、東大阪は決して攻め急ぎをしないで、スタミナとネバリを惜しみなくコート上に爆発させての勝利であった。

また、アキレス回復後フットワークにおいてまだ完全でないとはいえ、国際経験豊かな湯木を始め、本間、浦口とベテラン勢にそれぞれ黒星をつけた柴山・高崎の健斗は一年生が故に賞讃に価する。

決勝での対日体大戦では、柴山・高崎組が小片・堀川組の作戦に誘われて思わぬ不覚をとったが、第二複の石崎・及川組が好調裡に勝ち星をあげてタイ・スコアとした。

第一単の石崎は複に続いての出場でありながら、すばらしいスタミナとフットワークを基にして、強気強気で小片を押しまくり、第二単ではエース柴山が堀川の喰い下りを振り切って三点目をあげ、好調な高崎を残して、初優勝の栄冠をかくとくした。



▲やった！ 鬼よりこわい佐藤監督，空に舞い上がって，どんな顔をしているか見えぬのが残念

優勝街道を爆進する元気一杯の東大阪に対し、日体大は前日の準決勝で宿敵青学に勝ったことで峠を越したかのような感じがあり、決勝ではファイトが不足していたように見えた。

最後に東大阪の勝因を挙げて見よう。

まず一年生のみのチームとはいえ、前年の全国高校や国体でそれぞれ大あばれした連中であり、特にエースの柴山、パートナーの高崎は、高校時代から引き続いて佐藤監督の指導下にあって、優勝の体験も豊富でること。更に石崎（真岡女高出）及川（富田女高出）両選手がわずか半年の間にチームによく溶けこんでいて、チームワークがよかったこと。

また、技術面ではすばらしいスタミナ（準決勝での及川、決勝での石崎はいずれも単複連続出場である）を基にした崩れないフットワークと守備力が光っていた。

もちろん、特訓に特訓を重ねての佐藤監督のすぐれた指導力と、みごとな采配ぶりがチーム優勝の大きな力であることはいうまでもない。（**毛利清志**＝日本協会指導委員、前ユ杯コーチ）



塩崎（日女体）単複制す

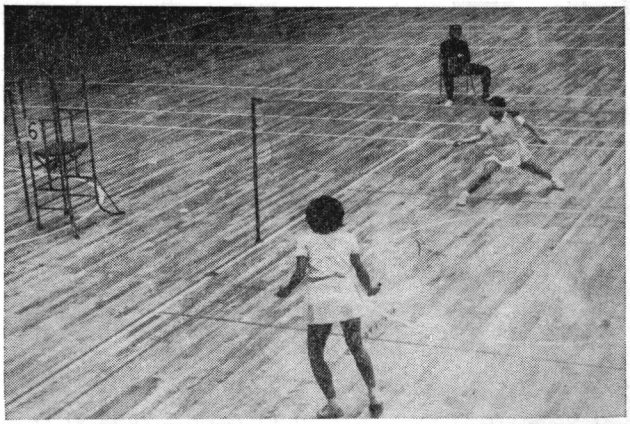
Aブロック 男子単は遠藤（日大）に

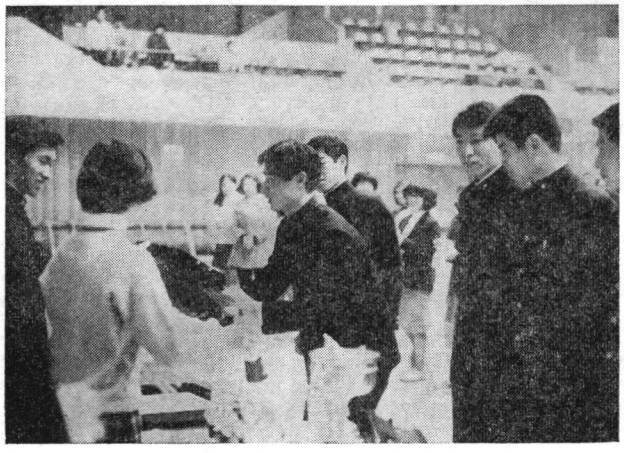
◆45年度関東学生新人戦（12月2～10日、東京・板橋体育館ほか）

男女ともA、B両ブロックに分かれ、団体戦、個人戦を行なった。

【Aブロック】女子の団体戦は、日体大Aが、名門・日女体大を3―2で破って優勝。同シングルスは塩崎睦子（日女体）が名和和子（東女体）にストレート勝ちで首位となった。塩崎は池田と組んだダブルスでも、日体大の中田・横尾組をくだし〝二冠王〟を手にした。

一方、男子団体戦は法大が草島・田所の活躍で日大Aにせり勝って王座についた。草島組は個人戦のダブルスでも、尾崎・小泉（中大）の長身コンビを圧倒し、優勝を飾った。シングルスは、ホープ遠藤好男（日大）と二上敏博（早大）の争いとなったすえ遠藤に栄冠が輝いた。





▲上はAグループ女子単の決勝，手前・塩崎と名和，下はAグループ男子団体優勝の法大。表彰を受けるのは草島選手

【Bブロック】男子団体は日体大、同シングルスは金田（日体大）、ダブルスは佐藤・立野組（専修大）が優勝した。

女子団体は日女体大が、シングルスも日女体の三原が、宮地（明学大）にストレート勝ちで優勝、ダブルスは宮地・島崎組（明学大）が新人王となった。

西川（正強）佐伯（一条）がともに〝二冠〟

◆第17回近畿高校選手権大会（11月21～22日・奈良県立橿原体育館）

滋賀、和歌山、京都、兵庫、大阪、奈良の六府県から男子59校、女子56校の選手が参加、個人戦の単複を行なった。

男子は単複ともに、地方の奈良勢が強く、ベスト4を独占した。シングルスは正強の同士打ちとなり、西川が中井を破って優勝。同ダブルスも正強ペアが決勝を争い、西川・佐野組が王座を獲得した。西川は〝二冠王〟。

女子も地元勢がよくがんばった。シングルスは一条高の佐伯が桝谷（尼崎西）に2点しか与えず圧勝。佐伯は古谷と組んだダブルスにも勝って、やはり二タイトルを手にした。

トヨタ自工が6連勝 女子は豊田織機A

◆第15回東海実業団選手権大会（10月25日・名古屋電気工）

男女とも団体戦（2複3単）で争われ、男子は十二、女子は八チームが参加した。

男子はトヨタ自動車が名鉄をくだして6連勝、通算13度目の優勝を飾った。女子は過去3連勝のトヨタ自動車が決勝で豊田自動織機Aに敗れる波乱があった。豊田は初栄冠。

香川、総合で岡山降す

◆第14回香川県・岡山県親善競技会（9月27日・岡山市山陽学園体育館）

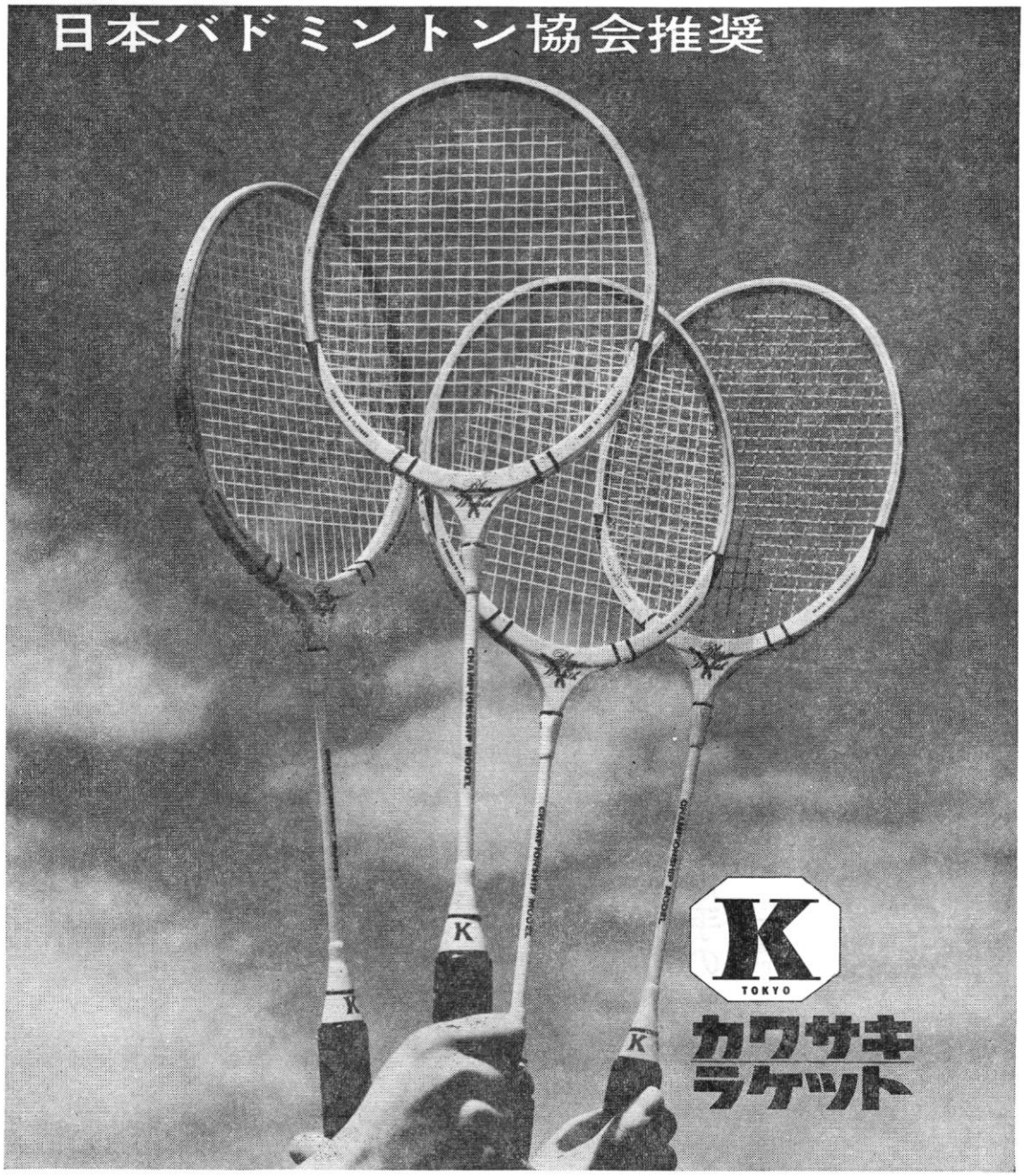
従来は各種別2複3単で、成壮年や混合ダブルスも行なってきたが、本年は国体種別に限り、各種別とも1複2単にあらためた。教員は3―0、一般男子は2―1で岡山のものとなったが一般女子、高校男女は香川が勝ち、3―2（トータル・ポイント8―7）で香川が総合優勝した。通算成績は香川9勝4敗（但し一回戦不明）。

（おことわり）このページの記録は、すべて巻末のレコード欄にあります。

kawasaki racket

ラケットの名門カワサキ——

長い歴史と抜群の技術は世界が認めるところ、にぎった瞬間にわかるバランスのよさ、その確かな手ごたえ……もちろんチャンピオンも使っています。



沖縄協会10周年記念・ダブルス選手権

本土招待選手が大活躍

4種目中，3タイトルを獲得



カット写真は大会のプログラム表紙

沖縄バドミントン協会の創立十周年を記念する第十一回沖縄総合バドミントン・ダブルス選手権大会は、十二月二十七日、琉球大学体育館で行なわれた。

記念事業の一環として、本土からも十四選手（七ペア）が招待され、男女各A、B二組の参加は、のべ73組、146組にのぼった。

試合は予想どおり本土勢が強く、男子A組は堺・永井組（河崎ラケット、福島平商）が、女子A組は助川・伏見組（福島平商）、同B組は高橋・武山組（大垣ク）と、四種目のうち三つまでのタイトルを占めた。男子B組は井上・金城組（那覇商）が勝った。

しかし、本土との交流という点では、大きな成功を収めた。

（この欄は、琉球大マネジャー比嘉鉦由君の寄稿と琉球新報の切り抜きによりました）

【男子A組】

▼一回戦
- 山口・与儀 2－1 宣志富・根間（沖浜・沖銀）（首里高）
- 宮城・渡辺 2－0 平田・真玉橋（那覇商）（沖大）
- 比嘉・宣志富 2－0 大山・小橋（沖大）（琉大）
- 堺・永井 2－0 儀間・知花（河崎ラケット、福島商高）（琉大）

▼二回戦
- 仲本・宮井 2－0 山口・与儀（那覇市・沖満運）

▼準決勝
- 仲本・宮井 2（15－6、10－0）渡辺・宮城
- 堺・永井 2（15－1、6－1）宜志富・比嘉

▼決勝
- 堺・永井 2（15－9、3－0）仲本・宮井

【男子B組】

▼準々決勝
- 尾比久・仲村 2－0 国中・上原（糸高職）

▼準決勝
- 国吉・大原 2－0 又吉・古波蔵（那覇商）（真和志高）
- 兼島・糸満 2－0 宮里・伊佐（中商職）（琉銀）
- 井上・金城 2－0 山城・大見謝（那覇商）

▼準決勝
- 尾比久・仲村 2（15－1、15－12）0 大国・吉原
- 井上・金城 2（15－1、8－0）糸満・兼島

▼決勝
- 井上・金城 2（15－11、5－0）尾比久・仲村

【女子A組】

▼準々決勝
- 大城・下地 2－0 仲村・大城（那覇商）（通関・沖ニッカ）
- 宮内・千葉 2－0 加藤・作山（福島平商）（福島平商）
- 宜保・高江洲 2－1 宍戸・高橋（実務校・那覇薬品）（宮城尚絅女）
- 助川・伏見 2－1 星野・桑原（福島平商）（大垣ク）

▼準決勝
- 宮内・千葉 2（15－1、3－1）0 大城・下地
- 助川・伏見 2（15－14、7－4）0 宜保・高江洲

▼決勝
- 助川・伏見 2（15－17、15－4）0 千宮・宮内

【女子B組】

▼準々決勝
- 宮城・崎原 2－0 赤嶺・伊野波（知念高）（那商定）
- 外間・石川 2－0 仲程・大城（首里高）（コザ高）

▼準決勝
- 高橋・武山 2－0 石原・石原（大垣ク）（琉銀）
- 武岡・高井 2－0 城間・玉城（大垣ク）（知念高）

▼準決勝
- 宮崎・原城 2（15－12、15－12）1 外間・石川
- 高武・山橋 2（15－18、15－17、6－12）1 高松・井岡

▼決勝
- 高武・山橋 2（15－1、3－0）宮崎・原城

感動した観客と選手の一体感

女子B組準決勝、一時間半の熱戦

琉球大マネジャー

比嘉鉦由

試合結果と大会総評は、新聞の切り抜きを参考にして下さい。以下、私の感想とミニ・インタビューを送ります。

まず、実力の差は、全くどうしようもなかったわけですが、それでも、及ばぬながら、本土の選手にぶつかっていく姿は、私には〝若さと希望〟の象徴みたいに思えました。

この姿は、沖縄の高校生にとって、非常に有意義な刺激剤になったと思います。

とくに、女子B組の準決勝、高橋・武山（大垣ク）×松岡・高井（同）（注、ともに実力は沖縄のA組以上）の一時間半にわたる大熱戦には、深い感動をおぼえました。

この試合を観戦していた高校生、大学生の目の〝するどさ〟は、実に美しいものでした。

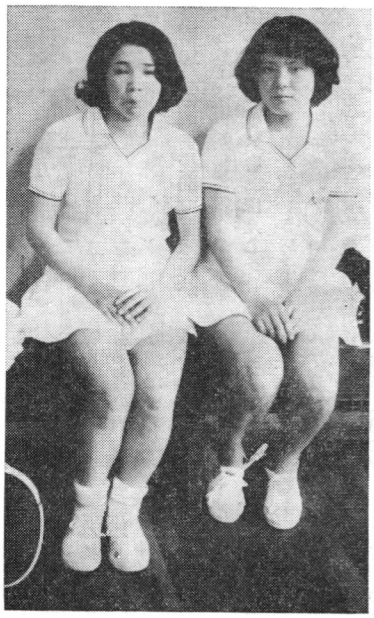
両ペアのコートの中の動きも無心にエモノを追い続けるライオンのようで、あたかも、自分の心の激動を表現しているように動きまわっていた。

選手と観客とが、目に見えないクサリで結びつけられているように〝一体化〟していた。その、目に見えないクサリとは、〝バドミントンに対する、ひたむきな態度〟であったと思います。

理事長も「総評」の中で述べているように、73年四月末の本土復帰記念スポーツ祭まで、沖縄が大いに飛躍するよう、今後も、この種の大会が多く持たれるよう期待している。

ミニインタビュー

大垣ク・高橋、武山選手に聞く
のんびりムードで緊張感がたりない



――沖縄に来ての第一印象は「むずかしい質問ね」

――この大会をみて、どういうところが、本土の大会とちがっていますか。

「そうですね、選手自身がのんびりしているというのか、なんか試合をしているという気がしない感じ」

「緊張感、緊迫感がない」

「シャトルに対する集中力というか、あくまでも追っていく気迫が欠けているみたい」

「運営や試合進行なんかも、非常にのんびりしているせいかもしれない」

――ふだんは、一日どれくらい練習していますか。

「会社が終わってからの練習ですし、クラブといっても勤務先きがみなちがいますから、一日二時間ぐらいですね。それも週に二回しか体育館は使えないんです」

――沖縄の選手たちに、なにを希望しますか。

「あまり、口はばったいことをいえる立ち場じゃないが、基礎をしっかりやってほしいですね。そうすれば、試合に粘りが出てくると思います」

――どうも、ありがとう。明日はゆっくり沖縄の自然を楽しんで下さい。

大きかった本土との差
〝復帰〟まで、さらに選手強化を
大会総評

沖縄協会理事長
仲村寛市

全体からみると、沖縄バドミントン界は、ここ十年間、かなり伸びてきている。

那覇商体育館から始まり、那覇商、琉大の二つの体育館しかない施設の不備のなかにあってこのように急速に発展した例は本土でもあまりみられない。

こんごの課題は、どのスポーツにもいえることだが、まず体力の養成、細かい技術、とくに連続動作を身につけることだろう。

自分の不得手とすることは、徹底的に地道に時間をかけてやらねばならない。不得手をなおそうとせず、カバーしようとすると、どうしても無理が出てくる。このためには監督がつきっきりで指導する必要があろう。

たとえば両サイドにドロップを落とすとか、連続スマッシュを身につけるとか、こういうことは地味ではあっても、徹底的にしていかねば、修得できるものではない。

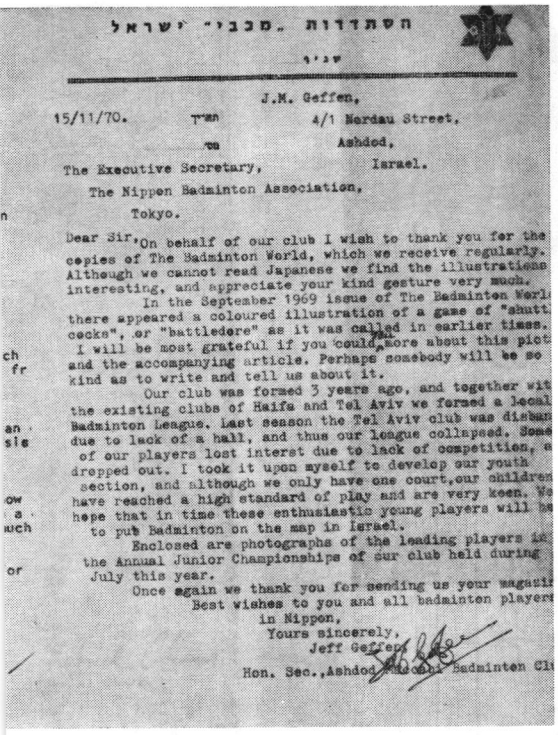
それに沖縄の場合、ひじょうに痛感されることは、中学校と高校のつながりがないこと。本土の名門校はみな綿密なつながりを持ち、立体的に選手の養成にあたっている。

今大会でもっとも印象に残ることは、本土選手と沖縄選手のからだのつくりが全然、違うことだ。

大会は予想どおり男子A組は堺・永井組、女子A組は助川・伏見組が優勝したが、まずその力からみて順当だろう。しかし沖縄男子の場合、宮井・仲本組はもっと食い込めたのではないか。初めから、勝てないという先入感がわざわいしたと思う。もっとがむしゃらにぶつかるべきだった。その点、女子はよくやった。とくに宍戸・高橋組を破った宜保・高江洲の健闘はほめていいだろう。

しかし、73年復帰記念国体まで、あと三年たらず。このくらいの力ではどうにもならず、こんご、さらに選手強化に本腰を入れたい。

北から南から



J.M. Geffen,
15/11/70. 4/1 Nordau Street,
Ashdod,
The Executive Secretary, Israel.
The Nippon Badminton Association,
Tokyo.

Dear Sir, On behalf of our club I wish to thank you for the copies of The Badminton World, which we receive regularly. Although we cannot read Japanese we find the illustrations interesting, and appreciate your kind gesture very much.
In the September 1969 issue of The Badminton World there appeared a coloured illustration of a game of "shuttlecocks", or "battledore" as it was called in earlier times. I will be most grateful if you could more about this pict and the accompanying article. Perhaps somebody will be so kind as to write and tell us about it.
Our club was formed 3 years ago, and together with the existing clubs of Haifa and Tel Aviv we formed a local Badminton League. Last season the Tel Aviv club was disban due to lack of a hall, and thus our league collapsed. Some of our players lost interest due to lack of competition, e dropped out. I took it upon myself to develop our youth section, and although we only have one court, our children have reached a high standard of play and are very keen. We hope that in time these enthusiastic young players will be to put Badminton on the map in Israel.
Enclosed are photographs of the leading players in the Annual Junior Championships of our club held during July this year.
Once again we thank you for sending us your magazi
Best wishes to you and all badminton players in Nippon,
Yours sincerely,
Jeff Geffen
Hon. Sec., Ashdod Maccabi Badminton Clu

らの反響が続々

もったいないの手紙〟も

第16号の編集後期で、米国から〝外人定期講読〟第1号が誕生したニュースをお伝えした。

すると、これを追いかけるように、イスラエルのアシュドッド・マッカビ・クラブ代表者から「毎号、楽しんでいる」という便りが寄せられ、ようやく出はじめた海外での反響に、編集部もニコニコ顔である。

便りの主、J・ゲッフェン氏は、こんなふうに語っている。

「もちろん、私たちは日本語が全然、読めないが、写真や絵を、大いに楽しみにしている。とくに、69年9月号(第2号)にあった古い時代のバドミントンのカラー写真には、大いに興味をそそられた。これについてもっと説明してもらえると、ありがたいと思う」

そして、同氏は自分のところのクラブについて触れ

「私たちのクラブは三年前に出来た。そして、ハイファ・テルアビゴのクラブといっしょに地方リーグを結成した。ところが昨年(69年)テルアビブのクラブが、体育館が不足していてプレーが出来ないとの理由で、やめてしまったため、リーグがつぶれた。

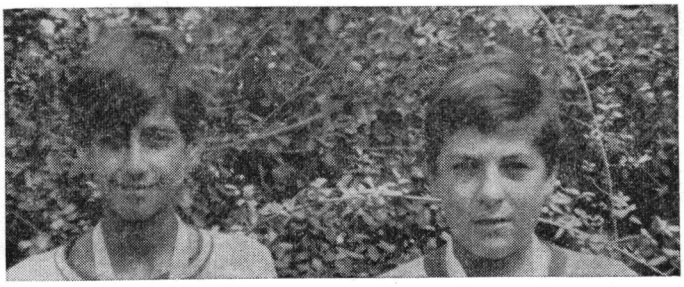
試合が少なくなったため、私たちのクラブも〝つまらない〟とやめるものも出た。しかし私は若手の育成に一生けんめいになり、おかげで、かなりの高いレベルの選手が生まれている。

この若手たちが、近い将来、イスラエルのバドのにない手になることを楽しみにしている」

ここに紹介する写真は、その代表的なプレーヤーだ。写真左から、14歳以下の部クラブ選手権二位M・ザン、一位Y・ゲーフェン「熱くてシャツを着てられない」と説明書き。次は同じく16歳以下一位H・ファルカシュと二位S・エズラ。一番右は16歳以下ダブルス優勝のS・エズラとY・ゲーフェン。

もちろん、こんな話ばかりでない。アラビア海バーラインのアワリ・クラブからは「読めないから、毎月、送るのはおよしなさい」という親切な連絡が来ている。これらの便りを合わせて写真で紹介する。





立派だった湯木のマナー

コペンの運転手も感心

「拝復　商用で先日コペンハーゲンに行きましたが、タクシーのドライバーが、湯木選手のコート・マナーが大変、立派であると、ほめていました。

旅の疾れも忘れて喜んだものです。(後略)　草々」

話は、いってしまえば、これだけのことである。

この手紙は、本誌の定期的執筆者である毛利清志先生(山陽学園教、日本協会指導委員)から編集部に送られてきたもの。

差出人は、大阪合繊の松王清志さん。つまり松王さんが毛利先生にあてたものだ。

毛利先生のコメントによれば松王氏は「岡山・西大寺高から関西大に進み、第三回アジア大会代表、学生東西対抗で史上唯一、西軍に優勝をもたらした立て役者」であり、社会人となってからは単身、欧州、アジアを外遊していた。

この話に出た湯木博江選手は、このとき全デンマーク選手権に出場、不幸にしてアキレスを切ったわけだが、連転手氏にまで感心されたとは、うれしい限りだ。

(次ページへ)

学生陣が三級審判検定会

45年度全日本学連委員長
菅原元

いささか旧聞に属するが、学生を対象とした審判講習会が開かれた（9月25～27日、東京・岸記念体育会館）。

東京に限らず、審判や競技進行の主体は、ほとんどが学生である。

だから、より多くの学生陣が審判の資格を持ち、正しい知識と判断を持てるかどうかは、大きな問題だ。45年度の全日本学連・菅原委員長に、レポートしてもらった。

× × ×

三級審判員検定会は東京都協会主催、関東学連協賛、小泉伸藤澄（東京都協会資格審査委員）伊（日本協会資格審査委員同）の両先生を講師として行なわれた。

日程は第一日講習、二日目技術、最終日筆記の各試験。関東学連傘下の38部員が集まり（大半は一、二年生）意欲的の姿勢を感じさせた。

講習はバドミントンの歴史、規則書を使っての競技規則、大会運営規定、審判用語など、一つ一つの説明を受け、先生方の実際の経験をもとにした、個々の具体的な例を頭にたたきこんだ。

問題となりやすいネットタッチ、オーバーネット、フットフォルトなどについても、実地にラケットを使って解説。

講習で強調された一つとして審判の心がまえがあげられる。小泉先生は「主審は試合の司会者という気持ちで」と述べ、とかくありがちな〝カウントを数えるだけのもの〟の観念を戒められた。

検定会は通常二日。今回は会場の都合で三日になったが、みな熱心に通い、三十八人中、三十六人が資格を得た。

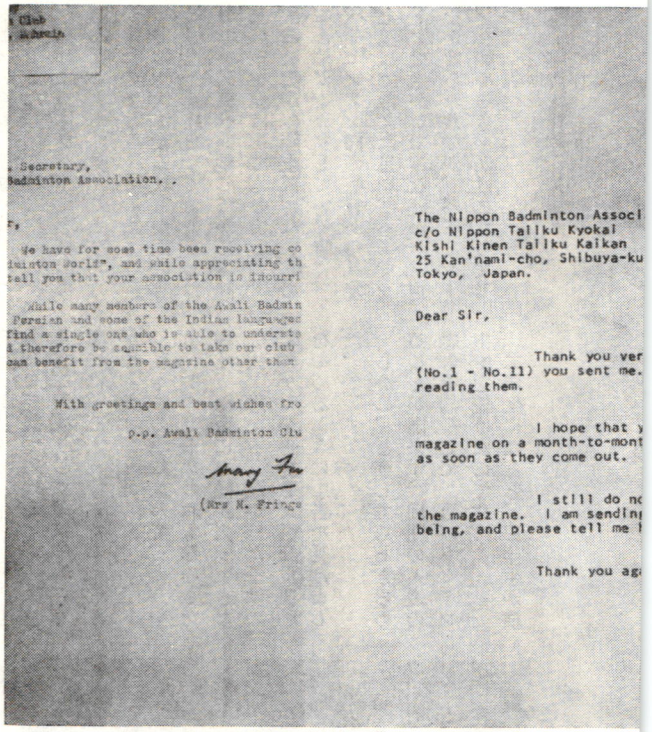
受講者の一人、青学大の山崎さんは「主審の正しいコール、審判の権限、ダブルスでのサーブ・レシーブの位置、順番をまちがえた場合の処置など、これまで、あいまいにおぼえていた問題がよくわかった…」と感想を書いている。

三級審判の検定会は、毎年、各県協会の手で定期的に行なわれているが、まだ、受講者は少ないようだ。

プレーがいくらうまくなっても、ルールを知らないでは、片手落ち。

実際、プレーヤー同士がルールを知らないためムダな時間を費やしたり、主審が判定をまちがえたため、試合の展開が変わったりすることもある。

早い機会に、できるだけ多くの人が検定を受けてほしい。



. Secretary,
Badminton Association, .

, .

We have for some time been receiving co
minton World", and while appreciating th
tell you that your association is insurri

While many members of the Awali Badmin
Persian and some of the Indian languages
find a single one who is able to understa
& therefore be sensible to take our club
can benefit from the magazine other than

With greetings and best wishes fro

p.p. Awali Badminton Clu

Mary Fra
(Mrs M. Fringe

The Nippon Badminton Associ
c/o Nippon Taiiku Kyokai
Kishi Kinen Taiiku Kaikan
25 Kan'nami-cho, Shibuya-ku
Tokyo, Japan.

Dear Sir,

Thank you ver
(No.1 - No.11) you sent me.
reading them.

I hope that y
magazine on a month-to-mont
as soon as they come out.

I still do no
the magazine. I am sendin
being, and please tell me

Thank you ag

「バド」界に海外か

なかには〝読めないから

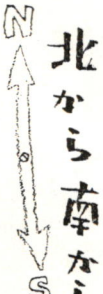


毛利先生は「恐らく他の日本代表選手も諸外国で湯木同様、りっぱなマナーに終始してくれていると信じます」と結んでいる。ささやかだが、心あたたまる話題だ。

……

訂正　第16号の〝北から南から〟で、見出しに〝東京・神田女学園で〟うんぬん、とあるのは、この記事本文中に書かれてあるとおり「日本橋女学園」のまちがいでした。関係者にご迷惑をおかけしたことをおわびするとともに、訂正いたします。

北から南から





生かされた〝陸上の脚力〟

思い出の一生

うれしかった女性初の遠征

読切連載【第13回】

八子文子

（旧姓長崎、35年全日本女子ダブルス優勝、日本女子海外遠征の初めとして韓国へ）

バドミントン競技を離れてもう六年。遠い思い出のような、また、つい先き頃のことのようにも思われます。

私が初めてバドミントン競技を知ったのは、高校へ進学してからでした。

それまではラケットを持って遊んだことも、見たことすらなかったのです。

中学時代は走ることが大好きで、陸上競技をしておりましたので、高校へ進学してからも陸上競技を続けるつもりでした。

ところが、陸上部はないとのこと。ガッカリしている時に、バドミントン部の監督から「陸上競技で鍛えた足を、バドミントンで生かしてみないか」と声をかけられたのが、バドミントンを始めるきっかけになりました。

一年生の頃は基礎を身につけるため、練習はもっぱら、ランニングと、ラケットを振ること、あとは先輩達の練習を見るだけの単調な毎日でしたので、最初五十人以上も入部した一年生も、日が経つにつれて、一人減り、二人減りして、一年の終り頃には、三人だけになってしまいました。

私もこの頃になって、ようやくバドミントンのおもしろさを知り、練習にも熱が入ってきた矢先、思いもしなかった子供の頃のケガが再発し、医師に運動をやめるように忠告を受けました。

しかし、どうしてもあきらめることが出来ず、周囲の人達の忠告を無視して、再びバドミントンを続けたのです。

二年生になると、三年生が横山さん（現在、樋渡＝第15号で紹介）だけでしたので、自然にレギュラーとして試合にも出られる機会が多くなりました。

それと同時に練習も厳しく、友達と遊ぶことも許されない選手生活でしたが、ただ高校時代の心残りは一度も優勝を味わうことが出来なかったことです。

ところが、高校卒業と同時に日本選手権ダブルスで優勝し、韓国からの招待で、初めての海外遠征に参加することが出来ました。

バドミントンを始めて日の浅い韓国でしたので、試合は一方的に、私達日本チームの勝利に終始しましたが、韓国選手のバドミントンに対する熱意には、心を打たれました。

試合結果はどうあれ、私にとって、この韓国遠征は、一生の思い出になったのです。

そして、社会人になって四年間、実業団での優勝を味わい、新潟国体を最後に引退しましたが、七年間、苦しい練習にうちかって、ラケットを手にして来られたのも、先輩、家族の励ましがあったからだと思います。

また、試合で得たものは、数多くありますが、私にとっていちばん大きかったものといえば、忍耐力だと思います。

今は家庭にはいり、一児の母となって、バドミントンは遠い思い出となりましたが、つい先き頃、主人の会社で球技大会があり、子供と一緒に主人の応援に出かけましたところ、子供達が楽しそうに、バドミントンをしているのを見ているうちに、とても懐かしくなり、子供達にラケットを借り、六年ぶりにコートに立ってみました。

その時の気持は、初めて試合に出た時のように、足はガタガタ震え、ラケットにシャトルが当たるだろうかと不安でいっぱいでした。

無我夢中でコートを十五分ぐらい走り回っているうちに、懐かしい汗の匂い、また、いつこうしてラケットを握ることが出来るだろうかと、しばらくラケットを握りしめておりました。

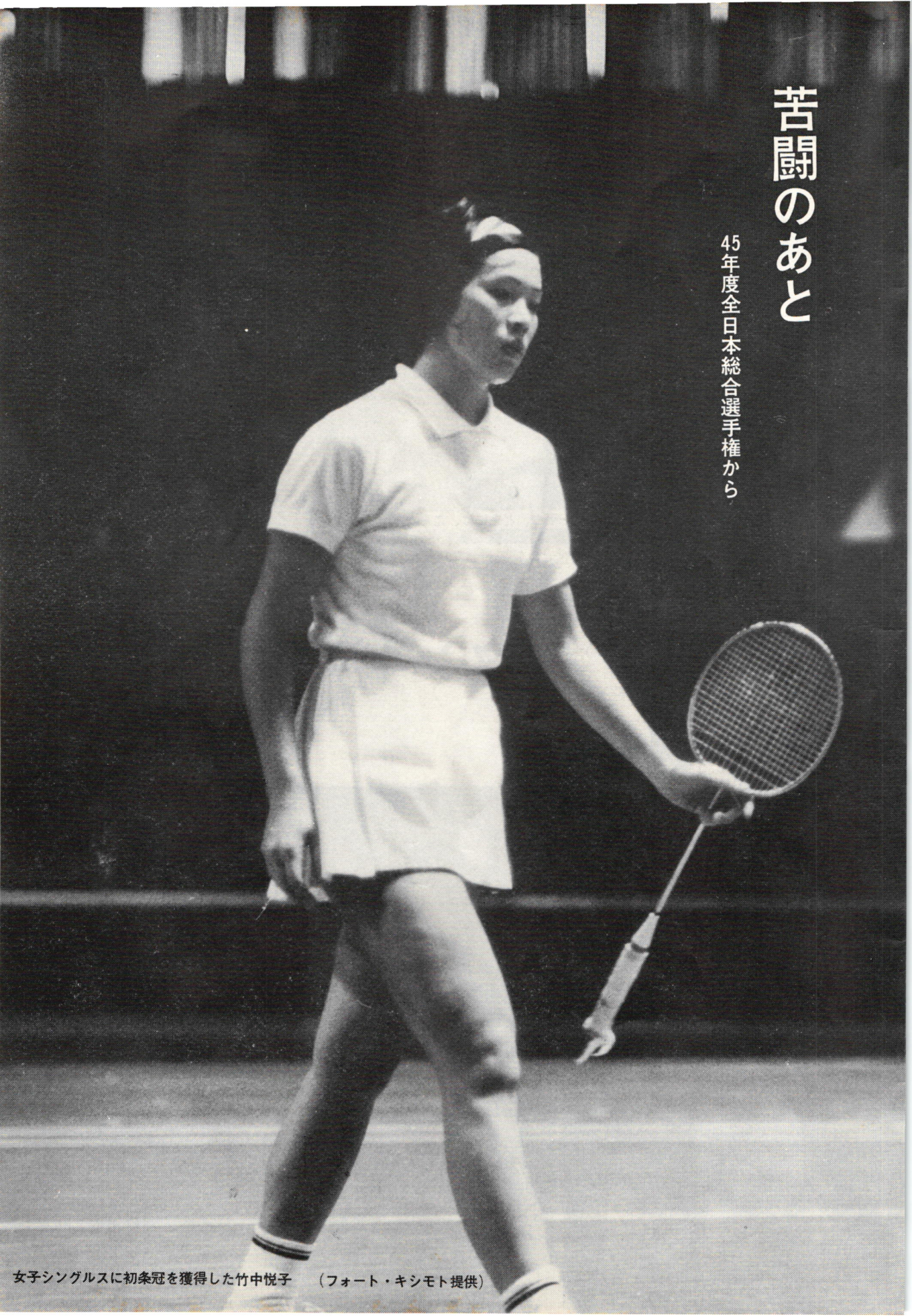
今は、時々、テレビで試合を見ながら、現役時代を懐かしんでおります。



▲韓国へ初めて女子として遠征した当時。　左から二人目が筆者，左は高橋奉子選手

苦闘のあと

45年度全日本総合選手権から



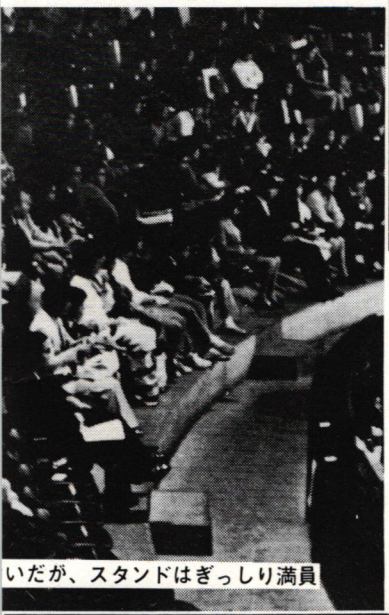
女子シングルスに初条冠を獲得した竹中悦子　（フォート・キシモト提供）



勝後のインタビュー
端理事長



①小島一平も、ときには、こんなやさしい顔をする



いだが、スタンドはぎっしり満員

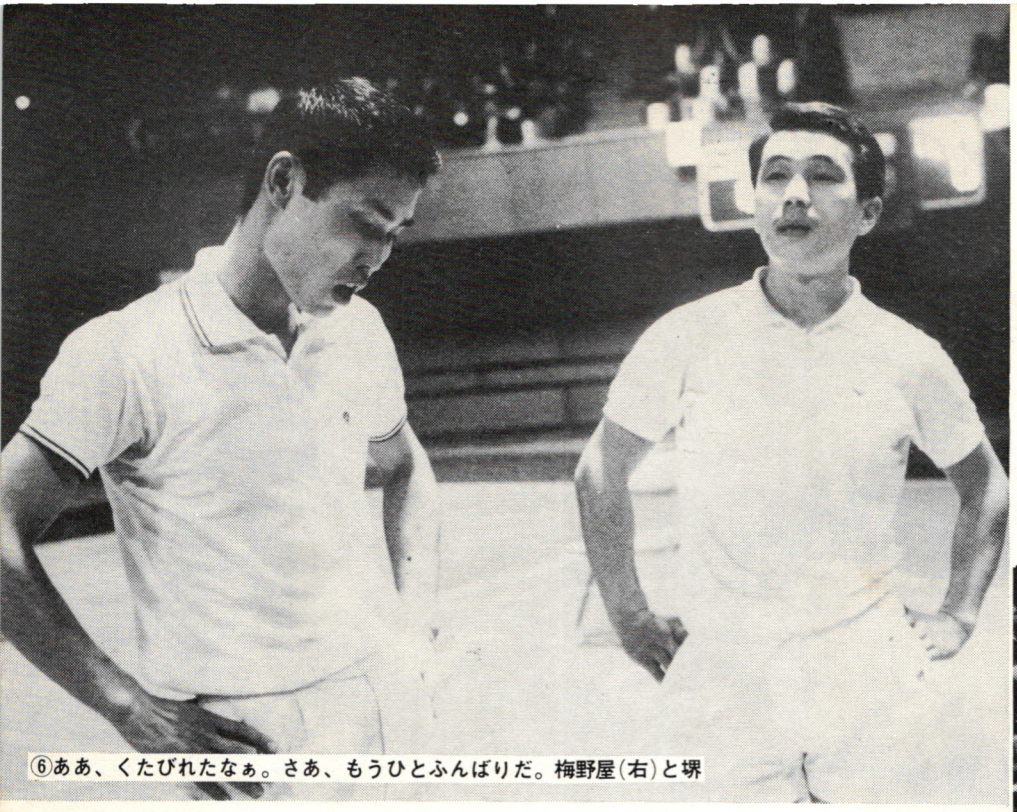
スタンドは見ている



⑤ここでしっかりしなきゃ　湯本



②わたし、本当に優勝したのかしら　竹中



⑥ああ、くたびれたなぁ。さあ、もうひとふんばりだ。梅野屋(右)と堺



③女子シングル
右端、解説者

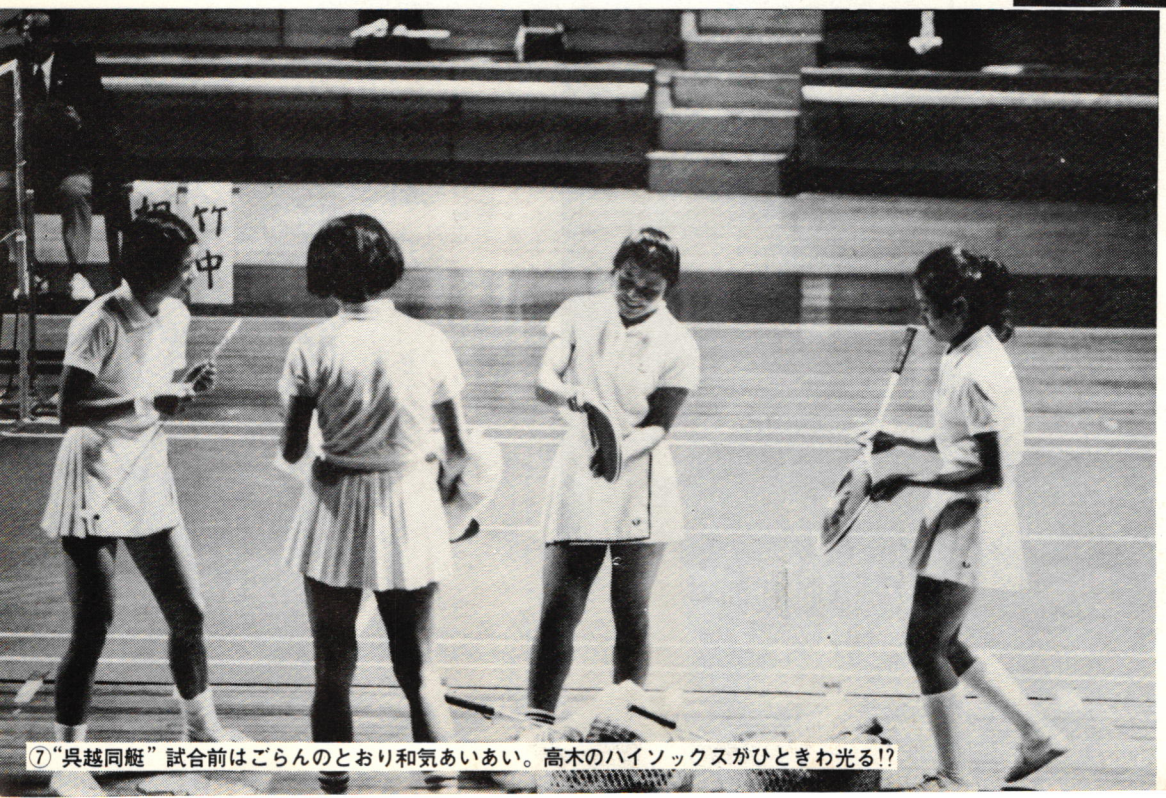


④ドリミングというトリック

写真提供

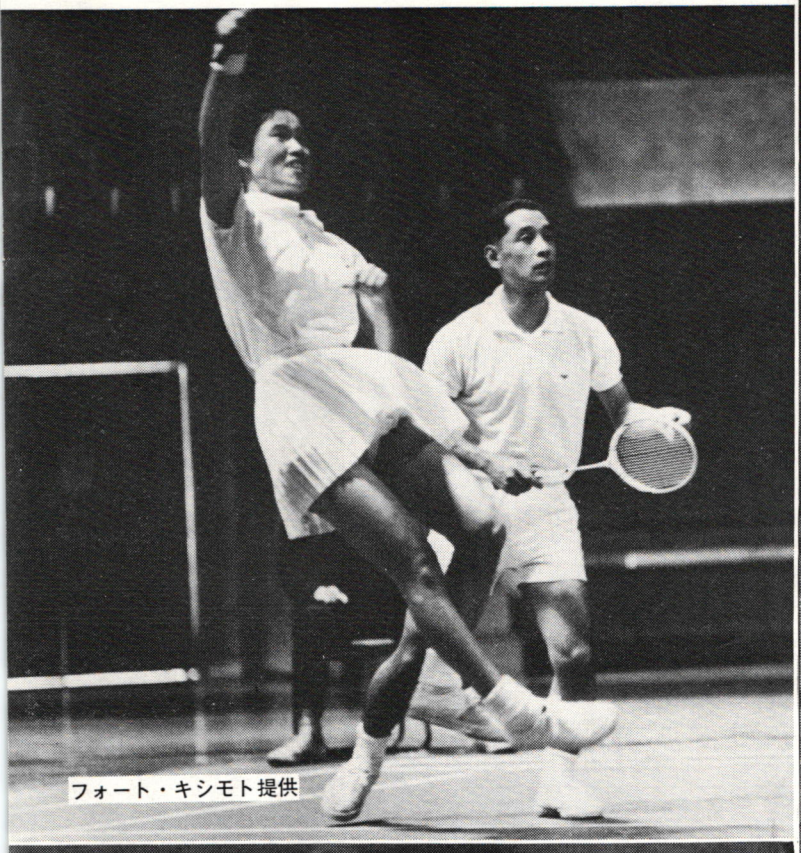
①②⑥ フォート・キシモト

③④⑤⑧ 山本洋彦
山村徳太郎

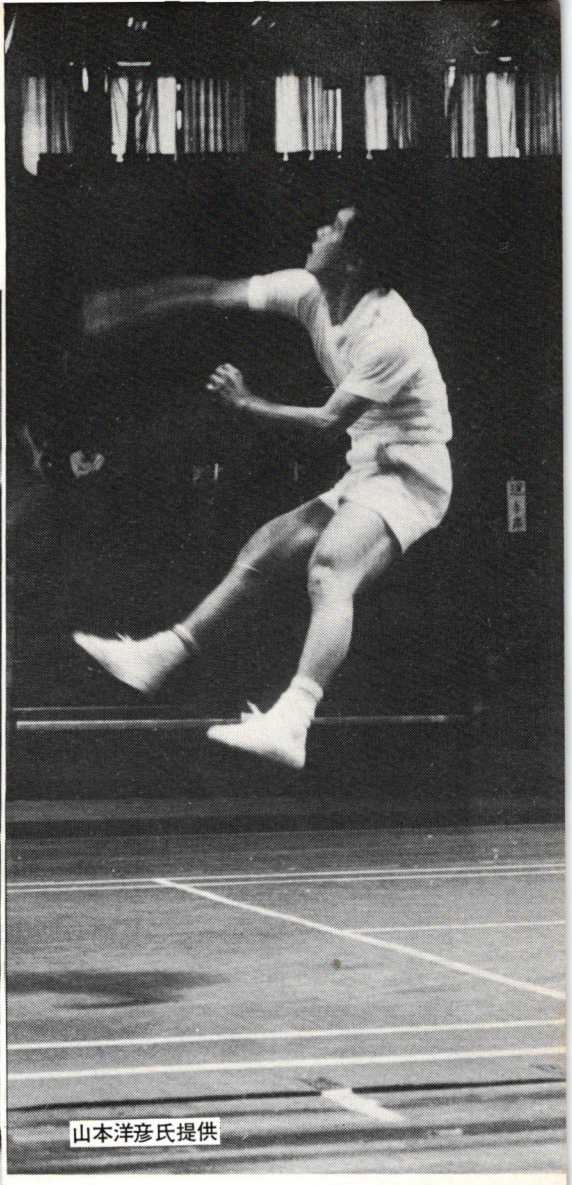


⑦“呉越同艇”試合前はごらんのとおり和気あいあい。高木のハイソックスがひときわ光る!?

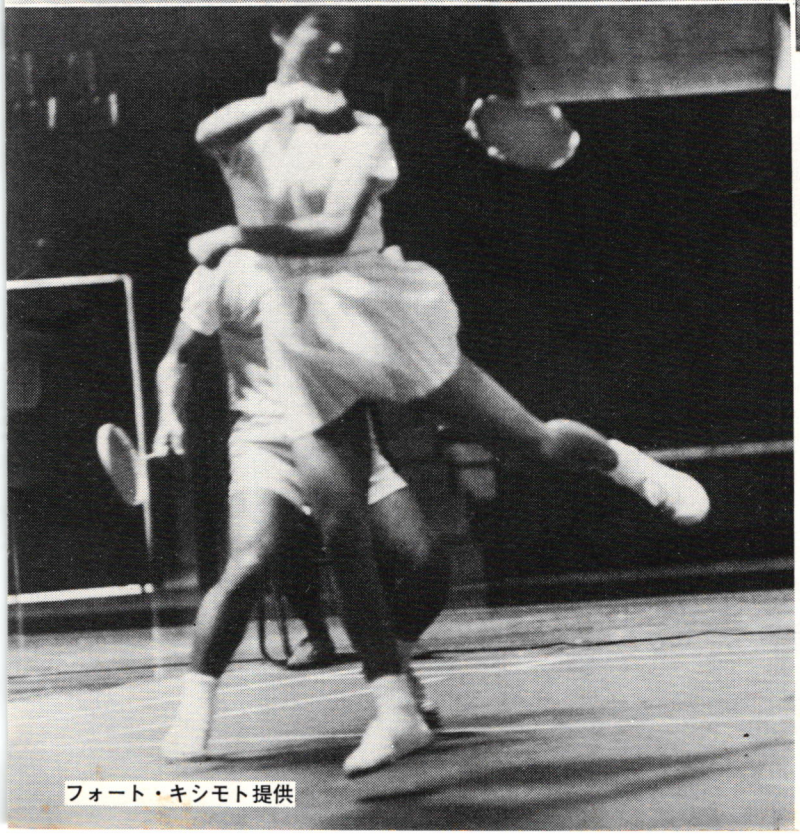
ベテランの闘志



フォート・キシモト提供



山本洋彦氏提供



フォート・キシモト提供

全日本総合では、ベテラン勢の活躍が目立った。

若手の台頭がないので、ものたりない、との評もあるが、それはそれとして、キャリアを積んだベテランたちが、後輩をしのぐ闘志と粘りを発揮、スタンドの拍手に応える姿は、見ていて、気持ちのいいものだ。

ここに紹介した二枚組みの写真は、たいていのファンなら、ご存知の杉田博、杉田良子の夫妻。

年令のことをいっては、失礼にあたるかもしれないが、お二人合わせて、71歳だという。

たゆまぬ精進、バドミントンにかける情熱が、この二人を、いつまでも〝第一線〟で活躍させる原動力となっているのだろう。

二人の半生記にはNHKテレビでも紹介された。

この二人にくらべれば、まだ30歳に手の届かぬ小島一平君など、先きが長い。

忍者のようなジャンプ力を、生かして、10連勝でも、20連勝でも、やってくれたまえ。

いくら勝ちすぎても、当局は一切、関知しないから、そのつもりで。成功をいのる。

日本協会指導委員長　伊藤基記

SKINSHIP に最適のバドミントン

母親はどんな立ち場で子に接するか

こんなにある〝共通〟の遊び場

最近「母子体力づくり」だとか、「母と子の共通の場」「スキンシップ」などという言葉がよく使われていますね。

私もこの紙上でしばしば母と子の共通の体力づくりの場について述べて参りました。

しかし、いっしょに運動する、ともに遊ぶといっても、その磁場における母親の立場（父の立場、大人の立場といってもよいでしょう）にも、いろいろあって、二通りや三通りではありません。

おのおのの能力により、施設用具の整備の度合により、人数により、季節により、それぞれのそもそものねらいによって、たくさんの場面を、位置関係を工夫する必要があります。今回はそれを列挙しておきます。

1・抵抗を与えて、それに反応させる（赤ん坊の手を握ってひっぱり起こさせる、足を押してふんばらせるなど）

2・対等の相手になってやる（ライバル的立場になる。練習相手になる。スパーリング・パートナーになってやる。鬼ごっこの相手をする。バドミントンの相手をする。キャッチ・ボールをするなど）

3・胸を貸す、圧倒的に強い横綱の立場になってやる（子供にブッつかりげいこをさせる）

4・その他大勢になって、仲間の中にとけ込んでやる

5・リーダーを買ってでる

6・用具の代用をしてやる（お馬になったり、跳箱になったりしてやる）

7・模範を示してやる（圧倒的なうまさをみせてやる）

8・同じような動作をいっしょにする。

ハダでとけこむ

9・習う、教えられる、助けられる立場になってやる

10・物語りの中にいっしょにはいってゆく

11・押されたり、引かれたりする

12・共同で一つの仕事を仕上げる（お互いに補いあう）

13・見物してやる。応援してやる。監督してやる。批判者の立場に立ってやる

14・封助者になる

15・それとなく見守る

16・隣りあったり、近くにいたりして、それぞれ楽しむ

17・強引に強制する

18・敢えて危難に放りこむ

19・親子で同じ種目の試合にでて、互いに応援し合う

20・同じ課題に交互に取り組む（鉄棒の蹴上りに交互に挑むなど）

21・防波堤的立場にたつ

22・親子でパートナーを組む

23・全部代用してやる（それでも子供はまるで自分がやっているような気持になっている）

24・相談相手、議論の相手になってやる

25・同化してリードする（手をとって教える。ラケットをいっしょに握って、振り方、当て方などを教えるなど）

26・図解をしてやったり、写真をとったりして、説明者、観察者の立場をとってやる

27・マネジャー的存在になってやる

……と全くいろいろな立場があるものです。しかも、この一つ一つが単独に現われることはまずありません。母親が一人何役もすることになります。

即ち、マネジャーと監督を兼ね、対等の相手をしたり、炊事係りのあとは同伴者になったり、全く大変なわけです。

追いつき、追い越される楽しみ

ところで、お母さんと子供がいっしょに楽しむ――それが上述のどのような立場をとるにもせよ――そういう立場からすると、バドミントンが本当に都合のよいスポーツだと我田引水したくなります。

小さい時からお母さんが、ひき出す役割をつとめ、小学校にゆく頃には、子供の方でも応ずることができ、五、六年生の頃にはお母さんとほぼ同じ水準に近づいて、中学の頃には、お母さんの方で、追いつかれる楽しみ、追いこされる楽しみを味わうことのできるスポーツ。健康的で、手頃なもの、そんな種目はそうざらにころがっているというわけには参りません。

ナワとびや、リズム運動、ドッヂ・ボール、ハイキング……などとならんで、ラケット遊び――バドミントンというコースは、どうしても一度はおすすめしたい種目ということになりますね。

中高校編（続）❸

バックハンドの徹底的研究

がむしゃらにリキむな

先決、タイミングとリズム

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

四、フットワークについて（続き）

1・ドリブン・クリアー、ハイ・クリアーの場合

基本のフォームは前述（第16号）のごとく不変である。

このストロークは、右足（前足）をほどよくあげて、一本足打法で、タマを腰のところまで落し、イチ・ニッ・サーンとタイミングを合わせて、打球の瞬間に親指とリストを利し、腰を入れ、ラケットは右斜上にフル・スイングする。（図5）

この場合も前述のごとく左掌を添えることが、コントロール、バランスを崩さないための大きなポイントである。

2・ハイ・バック・ハンドの場合

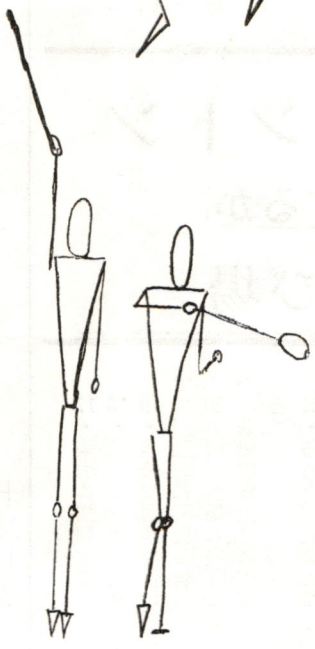
要注意点は、一番高い所のタマを打つことである。すなわち右耳の横に、ラケットを垂直にあげ、かつ、背のびをしたところのやや前方が理想的な打点である。

このストロークは体を真横にし、右足だけで打つことを原則とする。両足と右腕をやや曲げ（バネの役目を果たす）打球の瞬間に両足と右腕を完全に伸ばし切ってしまう。（図6、7）

打った瞬間にパワーを集中し打球面は止めてしまうことがある。これが、他のストロークと異なり、打球をより早く、より強く、より遠くへ、しかもコースを選んで飛ばす重要なポイントである。



（図5）



（図7，図6）

3・バック・スマッシュの場合

ハイ・バックと同様であるが打点をもう少し下げて、鋭角にしてリストを制し、打球面を強く止めること。

五、練習方法について

1・一人での練習

フットワークのところで触れたように、ネットに向かって拍子を取りながら、リズムに乗せてタイミングを覚える練習を、何回も何回もくり返す。

2・マン・ツー・マンの練習

一人はホーム・ポジションにいて、一人はネット前にラケットを持って立つ。ネット前の人は「ネット前、スマッシュ、クリアー」等をラケットで指示する。レシーバーは、それによって、前述の各留意点を念頭におきながら、タイミングを覚えるためのフットワークをやる。

3・古いシャトルあげ

1、2で充分フットワークを行なったのち、実際にシャトルによってタイミングを覚えさせてゆき、じょじょにマン・ツー・マンによる、よいシャトルを使用しての練習にはいっていけばよい。

ともあれ、バック・ハンド・ストロークは、がむしゃらにリキんではならない。力よりも、むしろ基本形に忠実な、リラックスしたタイミングで処することが大切である。早くタイミングなり、コツなりを覚えることが、効率の高いバック・ハンド征服の近道である。

バック・ハンドのうまい処理――これこそバドミントン競技に対する勝利と征服であると確信する。

（この項、おわり）

上級編　プレーヤーへの手紙

肘が曲がる、シャトルを〝切る〟

〝距離〟②　一般に多い共通欠点

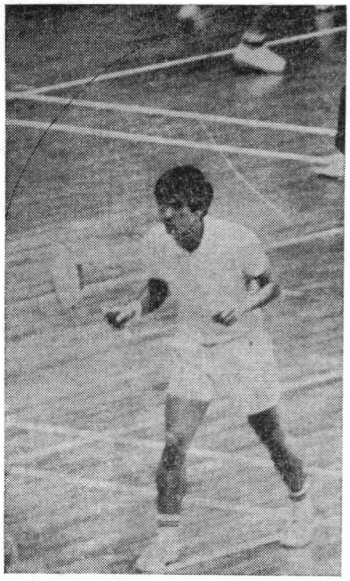
全日本教職員連盟常任理事　三須徳次

次にシャトルを打つ基本的なストロークのことです。共通した欠点をあげますと、①肘を極端に曲げたまま打っている。これはシャトルの飛行が悪く、ゲームが進むにつれて体力の疲労が激しくなるので、直さねばなりません。ラケットを持たない方の手を肘に当て腕が下がらない様にしっかりと手のひらで支え、肘の屈伸運動を繰返し行なって下さい。

②ラケットの振りが遅れるために、ラケットの先端が後ろに残ったまま打っている。これではシャトルが高くあがっても飛行距離が短かくなるので、指導者が横につき、打つべき高さにシャトルが落下して来た時に合図をして、ラケットのトップが、早く前方に振り出せる方法をやってみて下さい。

③シャトルが当たる時に〝切って〟しまい、シャトルにスピードがのらない人も多い。カット・シュットの場合は別ですが、クリヤーもスマッシュも切り打ちしてしまったのでは、効力が半減してしまいます。もう一度初歩に戻ったつもりで、相手に軽く打ってもらいヒットするやいなや、手前に捲き込む打ち方にならぬ様に、正確に当てる注意をして下さい。シングルスとダブルスでの打ち方は多少の違いがありますので、そのつど述べてゆきます。

最近は腰、膝、足首のほか、目立って多く痛めるようになったのが、肩や手首です。バドミントンは全身運動ですから、筋力を高め関節をよく動かす体操を常にやって下さい。手首や肩は、ラケットを操作するのに重要な箇所ですから、特に念入りにやります。鉄棒にぶら下がることを少々、工夫すれば、手首や腕・肩、それに腹筋・背筋も強化されます。テニスのラケットを振るのも、腕を鍛えるのに役立ちますし、野球バットの素振りも、手首の使い方に応用できます。バットを振ることは、手首以外に腰の捻りが加わりますので、体の側転、シャトルを横で打つ時に参考になります。



▲岩下一雄選手

今回登場の岩下一雄選手は、山梨県の甲府商業時代及び、中央大学二年生後半まで無名選手でした。昭和四十三年の全日本総合選手権大会のダブルスでエイトに入り、その実績を買われ、三年生でやっと関東リーグ戦出場の位置を獲得しました。

翌四十四年の全日本でシングルスにベスト・エイト入りしたものの、四年に進み、部の主務となったため、仕事に追われ、一時プレーで精彩を欠きましたが、全日本では必ず活躍してくれると、ひそかに期待しトップ・バッターに選んでみたところ、見事にダブルスで三位、シングルスで再びエイト入りしました。岩下選手がここまで強くなれた原因を本人に聞いてみました。

高校に入学した時、陸上競技部に入る予定を変更、強く、しかも伝統のあるバドミントン部に憧れ入部したとのことです。一年間は基礎体力養成を目的とした、走るだけの毎日だったのですが、陸上部に入部しようかと迷ったほどの中学時代からのランナーなので、苦しくて退部することなく二年目を迎え、クラブ内で初めてシャトルを打たせてもらった――結局、体力面や根性は、充分に訓練されていたことになります。

バドミントン・プレーヤーとして人間的な面は、高校の田村博先生門下生としてだれからも信頼され好かれる選手ですし、技術面でも高校OBの杉山コーチから、徹底的に基本を教え込まれ、その上、練習で胸を貸してくれた遠藤兄弟、窪田（旧姓岡崎）、秋山、野田各選手の指導も、岩下選手の成長に貢献しております。

皆さんと岩下選手に相似点があれば、お役に立つと思いますが、まずシングルスでは練習試合におけるリラックス・ムードで打つドロップ・シュットは、ネットすれすれに落下して相手はなかなか返球しにくいのですが、いざ実戦となると温厚な性格が災いして、流れるドロップになってしまい大変、損をしております。

経験不足といってしまえばそれまでですが、練習ではやれた、ネット際へ急激に落とせるドロップ・シュットを試合で使えれば、次の攻撃に結びつけるプレーができるので、一段と強くなれるはずです。

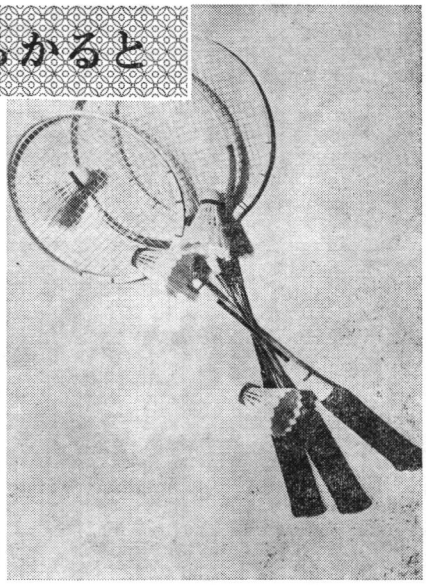
（つづく）

新連載 ❹

バドミントン用具の話題あらかると

《ラケットの巻》

日本協会用具委員会
委員長　松本弘充



（五）弦の張り方（続）

上から七番の穴から張っていく

ヨコ糸　真中附近は強く引っぱらない

わけです。（図A）

ロ・横糸を張る

① 横糸を張るには普通上から張ります。フレームの片側の一番上から七つ目に横糸を通し、反対の七つ目の穴まで縦糸の前後を交互にあみながら通していきます。

② 反対の七つ目に出たら、すぐ上の穴へ通して、縦糸にとめます。（図B、C）横糸を引っ張るには巻棒を使うとよくしまります。

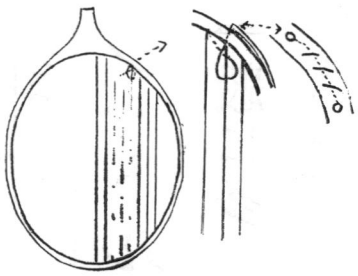
③ 一番上の横糸だけ引っ張らずに順々に横糸を張っていきます。かりに十の力があるとすれば上の方は九・五の力で真中附近は八の力で、下の方は九の力で張るとよいのです。（図D）真中附近がいちばん弱い力で引っぱるわけですが、強く引っぱるとフレームが変形したり、縦糸に負担をかけ縦糸が切れる原因となるからです。

④ 横糸を引っぱって次の下段をあむときに、目打か千枚通しで一時止めます。（図E）これは張った糸をゆるめないためですが、この時目打ちをねじこむとガットをいためることと、フレームの穴にそって目打ちをさし込まないと、目打ちが折れるばかりでなくフレームまで割れてしまいますから注意が必要です。

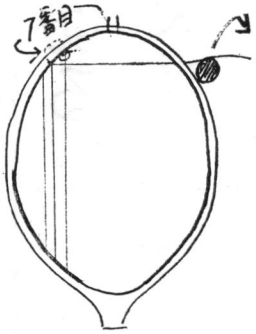
⑤ 横糸は下まで張らず、下から数えて九番目の穴までで、縦糸に結びとめて張り終りです。

ハ・部分修理

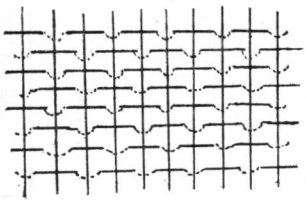
ガットの一部が切れたとき、全部、張りかえるのはもったいないので部分修理をします。しかし何カ所も修理することは、ガットのゆるみができ、弾力が減りますから好ましくありませ



（図A）



（図B）



（図C）

ん。部分修理は図をみて下さい。

要するに、切れた部分を、一、二本はずして止め結びをして、その部分に新しい弦を挿入して張りを止めるわけです。弦の途中でつなぐことはさけるべきです。（図F、G）

カバーをかけプレスする

温度、湿度の変化に注意

（六）ラケットのとりあつかいと保管

バドミントンのラケットは、他のラケットと比較してせん細にできていますので、その取扱いと保管には十分、注意して下さい。いくつか注意をあげてみます。

イ・取扱い上の注意

①ラケットを他人に渡すとき床をすべらせない。
②使用前後にたてかけておいたりしない。
③シャトルを拾うときに床をこすることもよくない。
④多人数で練習する場合他人のラケットやからだにぶつけて折らないように注意しよう

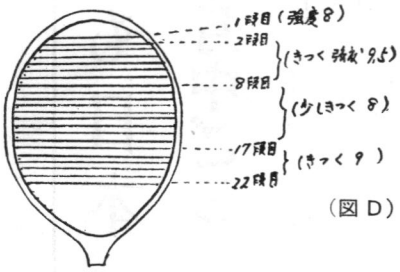
ロ・保管

①カバーをかけておくこと。
②プレスをしておくこと。
③暑気、湿気の多いところにおかない。
④柄にひもをつけて、つるしておくようにする。

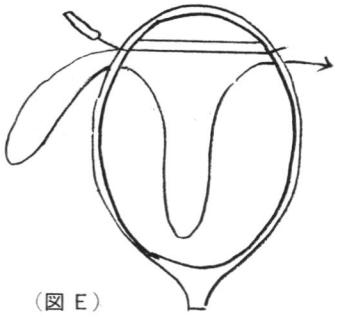
要するに、フレームの変形の防止。乾、湿、高音の防止のためです。

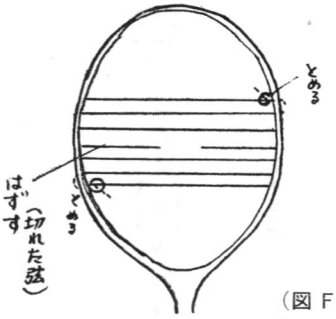
ラケットに限りませんが、プレーのために不可欠の用具は自分の身体の一部と考え、大切に、細心の注意をはらって、取扱い、保管することがバドミントン・プレーヤーとしてのつとめであると心得てください。

（完）

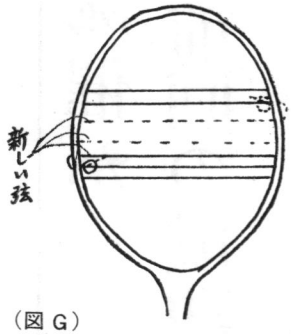


（図 D）


（図 E）



（図 F）



（図 G）

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社	大阪府八尾市福万寺町4-72	TEL 0729（2）3217
	◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）	
鐘屋産業株式会社	東京都文京区本郷3-17-2	TEL 03（811）3773
	◎ ナイロン　A級	◎ 綿　B級
（株）寺西喜商店	大阪府八尾市福万寺町4-31	TEL 0729（2）3210
	◎ バドミントン・ネット　C検定	
（株）ジイティヤング	本社　大阪市南区東平野町2-25	
	支社　東京都墨田区本所1-36-2	TEL 03（623）7155
	◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐	
	◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐	
ミセキセット製作所	埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4	TEL 04804（2）0379
	◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A	

次期ユ杯も日本開催か

72年6月中ごろ 前回の成功が刺激に

BFの視定によると、続けて同一国では開けないことになっている。

しかし、昨年のIBF理事会は、諸々の観点から検討した処「前回に大成功を収めたこと、日本でやれば収益もあがり、IBFもうるおうこと」などから席上の空気は、日本（東京）開催に傾いた。

このことは、IBF理事としての高倉正治副理事長にもたらされ、これを本田弘敏日本協会会長に披露した結果「IBFから正式に要請があれば受ける用意をしよう」との内意を得た。

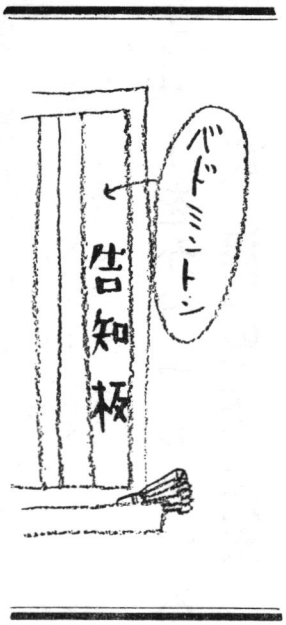
IBFは次の理事会で、更に審議し、七月の年次総会に上提するもようであり、日本開催が実現すれば、開催は来年（七二年）六月中ごろになるだろう。

なお、日本で開かれるのはインター・ゾーンとチャレンジ・ラウンドで、各ゾーンの参加申し込み締め切りは、アジア、オーストラリア、マレーシアの各ゾーンは本年一月一日、欧州が三月一日、米州が六月十五日となっている。

（注）日本は予選ゾーンには参加しなくてもよい。

◆ユ杯地区予選組合せ◆

▼アジア・ゾーン
香　　港
インドネシア
マレーシア
タ　イ
イ　ン　ド
▼豪州ゾーン
ニュージーランド
オーストリア



第六回ユーバー杯（女子の団体世界選手権）大会の開催地候補に日本があがっている。

前回の大会は日本（東京）で行なわれ、日本がタイトル防衛（二連勝）に成功している。I

再び全国の実態調査

≪指導委員会≫

少年少女への普及度

日本協会の指導委員会は、十二月二十八日付けで、各都道府県協会の理事長、指導責任者にあて、中学生以下の全国活動状況調査のための、アンケートを送った。

中学生の全国大会は、いよいよ、本年（八月下旬）からスタートの予定で、具体的な問題は二月十四日の全国総会の席上、論議される。

指導委員会は本年度の活動の重点を、少年少女クラスの開発においており、中学以下の学校やクラブ、スポーツ少年団での活動が、どうなっているか、どのていど組織化されているかを、まず調べることになった。

同委員会は、さきにも高校以下の普及状況を調べた（昨年六月下旬、本誌第13号既報）が、二十八府県からしか回答が得られず、また、回答によると、中学以下は二、三の地区を除いて、かなり普及が遅れていることがわかっている。

それから半年、状況がどう変化したか。期待が寄せられる。

アンケート要旨、つぎのとおり。（以下、各県内で）

①中学のクラブ数、授業がある学校数

②少年少女（中学以下）を対象とした〝社会体育〟としてのクラブ数

③県大会を開けば、中学、小学校それぞれ何校、何人ぐらい集まるか

④スポーツ少年団の中にバドミントン・クラブが、どれくらいあるか

⑤少年少女への普及にとって何が一番、障害となっているか

⑥教育委員会が、バドミントンの普及に積極的に協力してくれるか。中体連（中学校体育連盟）は、バドミントンにどういう態度をとっているか

⑦各県で、少年少女問題について、特筆すべきことは。

なお、本誌ではスポーツ少年団のバドミントンについて、別途に調査しており、近く、特集して、読者各位にお知らせする予定である。このアンケートの結果は近く掲載する。

ボクソール、ウェトナルら男女五人

バドミントンにもプロ誕生

史上初の試み、興業とレッスン兼ね巡業

ユーバー杯や全英選手権などで、日本のファンにもおなじみの美人選手たちが〝プロ〟に転向した。

さきに名前をあげると

▼マーガレット・ボクソール（英国）一九六九年、七〇年全英選手権女子ダブルス優勝

▼スーザン・ウェトナル（英国）ボクソールと組み、六九年、七〇年の全英選手権女子ダブルス優勝

▼ポール・ウェトナル（英国）スーザンの夫君。七〇年英国選手権男子シングルス、混合ダブルス（スーザンと組んで）優勝

▼レイ・シャープ（英国）六八、六九年度英国選手権男子シングルス優勝

▼ティナ・パリナガ（米国）七〇年米国選手権女子シングルス女子ダブルス、混合ダブルス優勝。同全米オープン女子シングルス二位

このニュースは一行のマネージメントをあずかる「テニス・ウロパ」のジョン・バーニー氏から日本協会にもたらされた。

転向は昨年十二月一日で、一行は、このグループに属し、エキシビション、デモンストレーションのほか、指導教室を開催して、コーチに当たることになっている。

バーニー氏は、テニスのプロ・コーチで、このグループにバドミントンのプロがはいったのは初めて。また、このように、はっきりした形でプロ転向をしたバドミントン選手は、これまでにない。

いずれにしろ、興行プロの誕生はバドミントンの世界にとって、ひとつの前進といえる。

なお、プロ転向により、これらの一行は、ユ杯、ト杯全英などのIBF関係の大会には参加できないことになった。

世界選手権は時期尚早

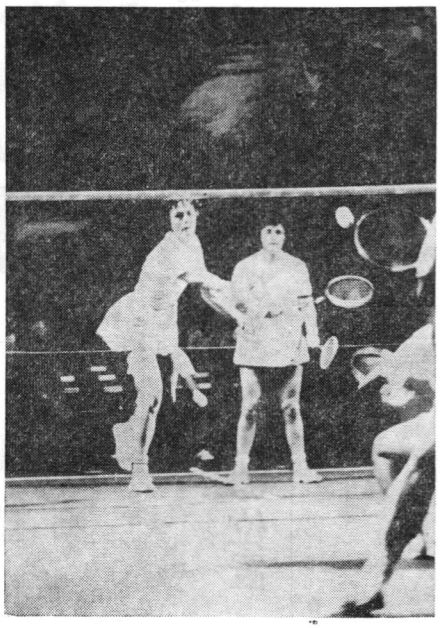
IBFの理事会は、昨年十月ベルギーのブリュッセルで開かれた会議の席上、個人種目の世界選手権大会の創設について協議したが、国際情勢からして、まだ機が熟していないとの絶論に達し、見送られた。

バドミントンの国際的競技会は、テニスにならって出来たため、個人種目の〝世界選手権〟と名付けられたものは、これまでになく、全英選手権が非公式の世界選手権とされている。

◆住所変更◆

◎川端昇市（日本協会理事長）⬇東京都東久留米市滝山町二丁目五ノ五、一〇三号

◎竹中悦子、相沢マチ子（ヨネヤマラケット）⬇東京都足立区伊興町本町三三七五、第二田中荘



◀44年ユ杯戦で来日したときのボクソール（右）ウェトナル組

靱副会長が死去

靱勉（うつぼ・つとむ）氏 日バドミントン協会副会本長、四十五年十二月十五日午前九時五十四分、じん不全のため、東京・築地の国立ガン・センターで死去。六十六歳。

葬式は同十八日午後二時から築地の東本願寺で行なわれた。

三十六年、実業団連盟会長となり、三十七年一月から日本協会副会長をつとめた。

国際電々社長。スポーツ界では、このほか、日本体育協会理事、スポーツ推興資金財団副会長の要職にあった。

×　×　×

×　×　×

内外の動き

早わかり競技規則
ルール100問？

連載 ⑭

日本教職員連盟
審判部監修

〝ウェスト〟は腰の一番上の線
問題は打球瞬間のシャトルの位置

9・フォルト（I）

サービス関係（前号続き）

問71 オーバー・ウェストとは。

答 サービスで、打たれる瞬間に、シャトルがサーバーのウェストより高かったとき。
—第14条 第1項—

ラケットがシャトルを打つ瞬間における、そのシャトルの位置が問題なのです。

次にウェスト（waist）は普通「腰」と訳しますが、実は「ウェスト」は日本語の「腰」全体でなく、腰の一番上の線、つまり、男の人のズボンなどのベルトの位置に大体当るのです。

このベルトの高さと同じ高さか、それより低いところでシャトルが打たれた場合はよいのですが、それより上のところで打たれると、フォルトになります。

問72 オーバー・ハンドとは。

答 サービスで、（シャトルが）打たれる瞬間に、ラケットの頭のどの部分でもがそれを持ったサーバーの手のどの部分よりも高かったとき。
—第14条 第1項—

第7図（A）の場合はオーバー・ハントで、（B）の場合は合法ぎりぎりです。

上の条文でいって第2行目の「…のどの部分…」という言葉が挿入されたのは、昭和35年です。この言葉がなかった昭和34年までは、（A図）の〔イ〕の線まで許されていたわけです。

ハンド（hand）は手首より先きのことで、肩から先き全部ではアーム（arm）つまり「腕」ですから、間違えないよう注意して下さい。（図1）

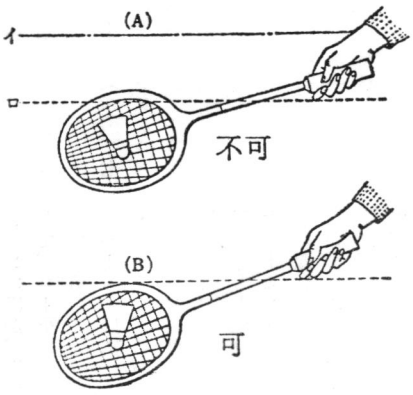
問73 ライン・クロスとは。

答 サービスが打たれるまで、サーバーやレシバーの両足が視定のサービスコート内にないとき。
—第14条 第3項—

視則16条に、これに関しての付加的説明があって、「これらの（サーバーやレシーバーの）足がラインにふれていると、サービス・コートの外側にあることになる」となっています。

「ライン・クロス」という語句は、ラインを横切っている、つまり、プレーヤーがラインをふみこえているという意味にとれますが、サーバーやレシーバーの足の一部でもサービス・コート内にない場合一切を日本では「ライン・クロス」のフォルトと呼びます。

勿論、全然サービス・コートの外でサービスしようとしたり、レシーブしようとしたりすれば主審が注意を与えるでしょうから、プレーヤーも主審もうっかりしているとき以外は、そんな体勢からサービスが始められることはあり得ないはずです。



▲オーバー・ハンドの判定基準
（図 1）

〝両足の一部〟の解釈を間違うな

問74 フット・フォルトとは。

答 視則第16条が犯されたとき。—第14条 第11項—

サーバーとレシーバーはそれぞれ定められたサービスコートの内に立たなければならない。これらの両足の一部はサービスが打たれるまで静止の状態で地面についていなければならない。
—16条—

これは、第14条、第3項にフォルトとして述べたことを、さらに深く説明したわけで、フォルトを一括とり上げた第14条でなく、次の「一般視定」の中の第16条に記載されています。

さて、次に「サーバーやレシーバーの両足の一部」ということですが、これも原文をよく解釈すると、サーバーにしてもレシーバーにしても、両足のそれぞれの一部との意で、都合二箇所です。2つある足の全部を通じて一箇所のことではありません。

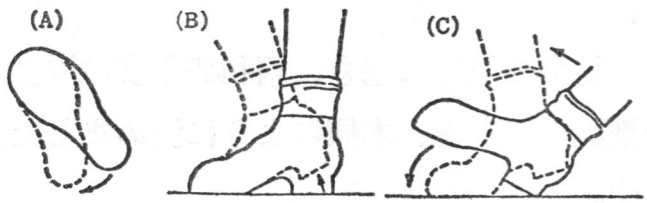
なお、足（foot feet）は足首から先きの部分で、ももから先き全体は「脚」となり、英語ならレッグ（leg）ですね。これも、前に出て来た「ハンド」同様、とり違えないように……。

昭和35年までは「両足の一部」を「両足の一定の一部」と解しておりましたが、同年以降は必

ずしもそうは考えなくなりました。（図2）

そして、IBFの総合での協議の結果、第8図の(C)の場合でも合法と認められるようになりました。つまり、常に各足のどこかの部分が静止の状態で地面についていればよいのです。

このフォルトの条項は第14条第3項なのであって、第16条はその説明という形をとっています。ですから、プレーヤーがこれを守るように、主審としてもよく注意し、間違いなくプレーをさせるというのが本筋なのですが、実際問題として、プレーヤーは、主審が指導する暇もないうちに、これを犯すことがしばしばです。



（図2　フット・フォルト）

その際、主審は、第14条11項に基づいて「フォルト」を宣告することになります。

混同されている〝フェイント〟と〝ディセプション〟

問75　ボークとは。

答　どのプレーヤーでもサービスーの前の最中中予備的な欺変をしたり、相手を意織的に惑わしたとき。
—第14条　第4項—

条文の第2行目の「欺変」はフェイント(feint)のことです。

日本では、フォルトにならない作戦上の「かけひき」や、ストロークのモーションを隠すことを「フェイント」といっていますが、これは正しくはディセプション(deception)といべきで、フェイントといってしまったら、むしろ、フォルトになる違反行為なのです。

要するに、明らかにサーブしようとしてから、サービスの動作を中絶するとフォルトになるのです。これについては、さらに、競技視則の後に付けられた「解説」にも述べられています。

サーバーとレシーバーがそれぞれサービスのための位置をとった後に、サーバーがサービスの継続を破るような効果を持つどんな動きや行為をしても予備的な欺変となる。
—解説1—

これでよくおわかりでしょう。

問76　サービスはいつ始まりいつ終るかということが問題のように思いますが。

答　大変立派な質問です。サービスの期間ですね。これは競技視則のあちこちを何回も比較対照しながら読み返さないと正しい答えは出て来ません。

サービスは、サーバーがサービスのために構え、レシーバーがこれを受ける用意ができたときに始まります。

そして、サーバーのラケットでシャトルが打たれた瞬間に終ります。この二者の間が「サービスのなされるとき」というわけです。

ですからこの期間にフット・フォルトやボークをしてはいけないのです。



公　　告

日本バドミントン協会では総会の決定に基き、昭和45年度の協会検定、審査合格および協会推奨の用具を、本欄のように決めましたので、ここにお知らせします。

昭和45年４月１日

日本バドミントン協会

昭和45年度日本バドミントン協会審査合格用具推奨用具

ラケットの部	銘柄名	会社名	摘要	ウェアーの部	銘柄名	会社名	摘要
	ラッキーセブン張上（#7）	株式会社ヨネヤマラケット			(男子)#106ショートパンツ	株式会社ヨネヤマラケット	
	スリーエート張上（№8）	〃			(男子)#107シャツ	〃	
	クインハートフレーム（#1,000）	〃			(男子)#105ショートパンツ	〃	
	カレッヂエイトフレーム（#3,000）	〃			(男子)#108シャツ	〃	
	カレッヂエイトデラックスフレーム（#4,000）	〃			(女子)#203ミニスカート	〃	
	ファイブエースフレーム（#5,000）	〃			(女子)#204シャツ	〃	
	ファイブエースデラックスフレーム（#6,000）	〃			(女子)#202ミニスカート	〃	
	レディエースフレーム（#6,500）	〃			(女子)#205シャツ	〃	
	アルミナエースフレーム（#7,000）	〃			(女子)#200スカート	〃	
	アルミナエースデラックスフレーム（#8,000）	〃			(男子)#104ショートパンツ	〃	
	キングダイア（#2,000）	〃			(男子)#109シャツ	〃	
	コールドキング	株式会社諸江製作所			(女子)#206シャツ白	〃	
	ダンロップ	〃			(男子)№500 リースバドミントンシャツ	河崎ラケット工業株式会社	
	キングクリッパー	〃			(男子)№533 リースバドミントンショートパンツ	〃	
	キングメイト	〃			(女子)№500 リースバドミントンシャツ	〃	
	シルバーデラックス	〃			(女子)№592 リースバドミントンスカート	〃	
	ハイ・スピード（№2）	大阪合繊株式会社			チャンピオンバドミントンシューズ	〃	
	ハイ・トーマス（№3）	〃		シューズの部	バドミントンシューズ	株式会社ヨネヤマラケット	
	フィアレス（№10）	〃			アタックシューズ	株式会社諸江製作所	
	フェニックス・インペリアル（№30）	〃			アタックデラックス	〃	
	エクセレント（T-1）	〃					
	ブルーリース（№B-6P）	河崎ラケット工業株式会社					
	エバーウィン（№206）	〃					
	カアルトンオールスチールラケットスリーポイントセブン	日本カアルトン株式会社					
	№8 ウィンナー	株式会社トヨダスポーツ					
	№1,000 ニューミニ	〃					
	№3,000 ブルー	〃					
	№4,000 アルバート	〃					
	№5,000 ニューアルバート	〃					

☒全日本総合選手権大会（11月5～8日、東京・目黒体育館、代々木第二体育館）

◆男子シングルス

▼一回戦

浅野（三ツ葉電気）2(15-10-9)0市川（日大）
瀬戸（IBAM）2(18-15-13)0巽（正強高）
森谷（電電東京）2(15-16-10)0加藤（名古屋電工）
星野（電東京）2(15-23-0)西村（富山商）
今泉（中大）2(15-16-11)0佐々木（千厩高教員）
小島（ヨネヤマラケット）2(15-21-0)浅野（三ツ葉電機）
池田（電東京）2(17-15-14)0杉本（早大）
鷲尾（中大）2(15-14-20)森（新宮商）
杉田（横浜立教員）2(15-17-11)0遠藤（日大）
梅野尾（ヨネヤマラケット）2(15-15-20)0金田（天理高）
秋山（秋山紙店）2(17-15-17)0瀬戸（IBAM）
谷口（立大）2(15-15-18)0遠藤（日本鋼管）

▼二回戦

小島（ヨネヤマラケット）2(15-15-21)0浅野（三ツ葉電機）
星野（電東京）2(15-15-23)0西村（富山商）
今泉（中大）2(15-15-16)0佐々木（千厩高教員）
池田（電東京）2(17-15-14)0杉本（早大）
鷲尾（中大）2(15-15-14)0森（新宮商）
杉田（横浜立教員）2(15-15-17)0遠藤（日大）
梅野尾（ヨネヤマラケット）2(15-15-15)0金田（天理高）
秋山（秋山紙店）2(17-15-17)0瀬戸（IBAM）
谷口（立大）2(15-15-18)0遠藤（日本鋼管）
森谷（電電東京）2(15-16-10)0加藤（名古屋電工）
瀬戸（IBAM）2(18-15-13)0巽（正強高）
浅野（三ツ葉電気）2(15-15-10)0市川（日大）鶴村
今井（早大）2(15-21-11)0工藤（熊本中央教員）
本間（中大）2(15-18-15)0森谷（電東京）
坂本（カローラ神奈川）2(15-18-14)0森（川岡紡織）
堺（カワサキラケット）2(15-15-12)0木戸（日体大）
岩下（中大）2(15-15-14)0清水（永見高）
鈴木（電東京）2(17-15-14)2杉山（日大）
草間（法大）2(15-15-14)8鈴木（三菱横浜造船）

▼準々決勝

今井 2(15-15-6)0
坂本 2(15-15-6)9 0堺
岩下 2(15-15-13)10 15 1鈴木
秋山 2 15 9 15 6 15 8 1草島
梅野尾 2(15-15-5)1 0杉田
鷲尾 2 15 12 15 6 15 1 1池田
今泉 2(15-15-12)12 0谷口
小島 2(15-15-3)3 0星野

▼三回戦

小島 2(15-15-3)3 0星野
今井 2(15-15-2)11 0工藤（熊本中央教員）
堺（カワサキラケット）2(15-15-10)12 0木戸（日体大）
坂本（カローラ神奈川）2(15-18-9)14 0森（川岡紡織）
岩下（中大）2(15-15-8)4 0清水（永見高）
鈴木（電東京）2(17-15-14)2 0杉山（日大）
草間（法大）2(15-15-4)8 0鈴木（三菱横浜造船）

◆男子ダブルス

▼一回戦

瀬戸・関（IBA M、早大）2(15-15-6)7 0森田・松島（富山商）
今井・二上（早大）2(15-15-10)11 0山本・中山（北辰電機）
遠藤・村谷（日大）2(15-15-4)12 0平井・落合（カワサキラケット）
草島・田所（法大）2(15-15-5)12 0中原（熊本、工藤・芦西合志小教員）
森谷・星野（電電東京）2(15-15-13)0牧田・中山（福井高）

▼決勝

秋山 2(15-18-21)13 0本間
小島 2(15-15-12)0秋山

▼準決勝

小島 2(15-15-4)5 0梅野尾
本間 2(15-15-4)2 0坂本
秋山 2(15-15-5)10 0岩下
梅野尾 2(15-15-11)3 0鷲尾
小島 2(15-15-4)5 0今泉

▼二回戦

秋山・小島（秋山紙店、ヨネヤマラケット）2(15-15-5)10 0関・瀬戸（早大教員、IBAM）
武岡・佐倉（早大）2(キケン)0山田・竹野（新潟商）
笠井・滝野（法大）2(15-15-13)10 0藤沢・高砂（高教員）
木戸・門間（日体大）2(15-15-10)11 0佐々木・岩谷（彦千厩教員）
今井・二上（早大）2(15-15-15)8 1鈴木・池田（電東京）
今泉・岩下（中大）2(15-15-15)10 1遠藤・村谷（日大）
草島・田所（法大）2(15-15-17)0杉本・及川（早大）
森谷・星野（電東京）2(15-15-6)3 0杉山・牧野（日大）
木戸・門間（日体大）2(15-15-10)12 0本間・鷲尾（中大）
笠井・滝野（法大）2(15-15-4)12 0森・河田（川島紡織、大洋）
堺・梅野尾（カワサキラケット、ヨネヤマラケット）2(15-12-18)14 1武岡・佐倉（早大）

◆女子シングルス

▼一回戦

藤井（真岡女高）2(11-12-9)8 0天野（東海女短大教員）
相沢（青陵女短大職員）2(11-11-10)3 0森田（富田女高）
堀川（日体大）2(11-11-13)5 0大橋（豊田織機）
佐伯（二条高）2(11-12-18)21 1及川（東大阪短大）
小片（日体大）2(11-11-12)1 0福永（三菱電機伊丹）

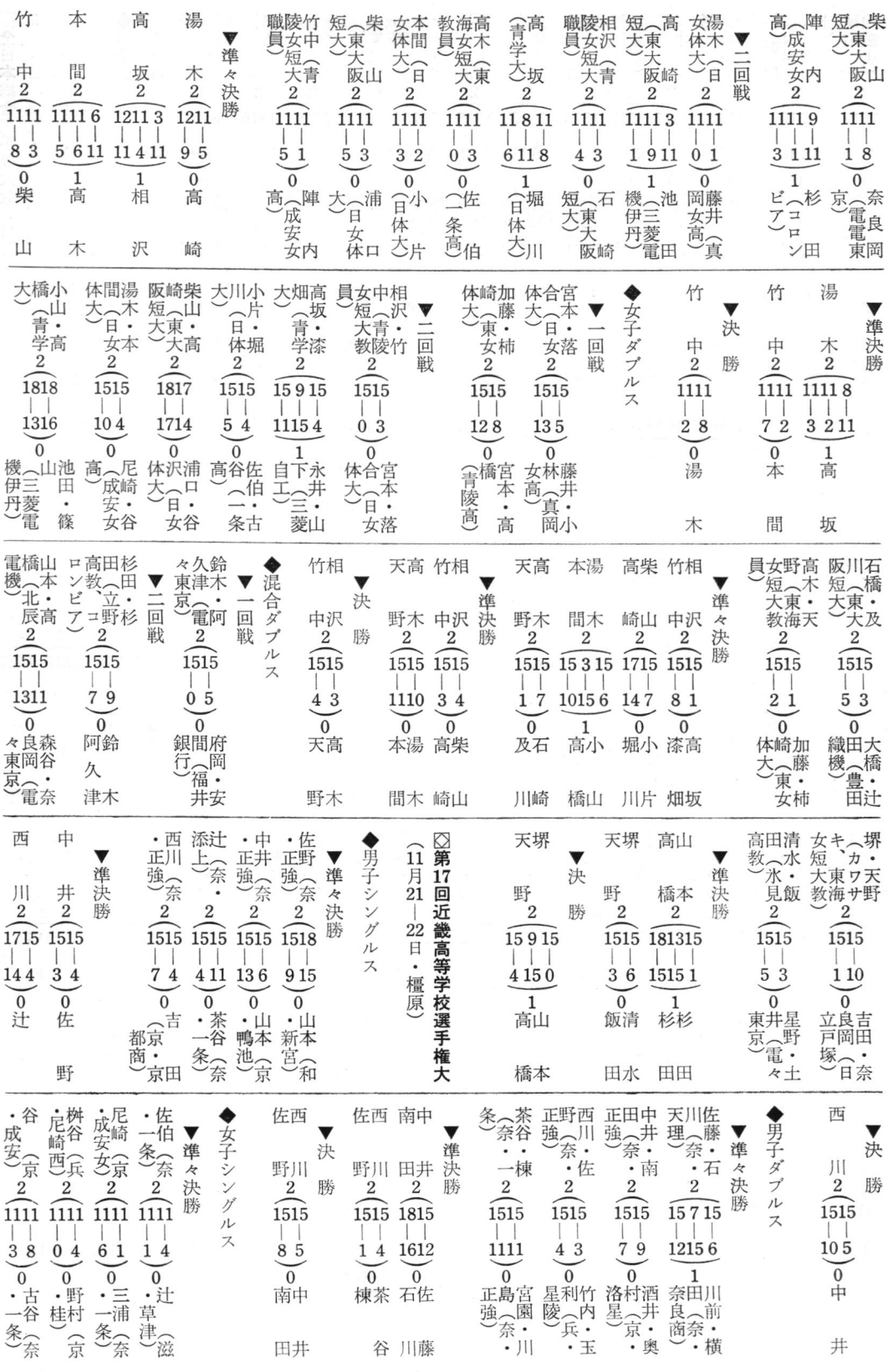
▼決勝

梅野尾 2(15-15-9)2 0小秋島山

▼準決勝

小秋島山 2(15-17-16)5 0今岩下泉
梅野尾 2 17 15 14 7 0門木間戸
梅野尾 2(15-15-13)6 2 1滝笠野井
門木間戸 2(17-18-14)15 0星森野谷
岩今下泉 2 15 5 18 11 15 13 1田草所島
小秋島山 2 15 15 11 3 5 15 1二今上井

▼準々決勝



◎第17回近畿高等学校選手権大会
（11月21―22日・橿原）

▼準決勝

佐伯 2(1211—1102)0 尼崎
桝谷 2(1111—63)0 谷
佐伯 2(1111—11)0 桝谷

▼決勝

佐伯 2(1515—49)0 谷尼崎

▼準決勝

佐古谷 2(1515—57)0 牧井上野
谷尼崎 2(1515—85)0 焼田宮田

◆女子ダブルス

▼準々決勝

佐伯・古谷(奈・2)(1515—100)0 堤・中井(奈・添上)
牧野・井上(京・2)(151516—1851)1 三浦・村岡(奈・一条)
焼田・田宮(奈・2)(1515—53)0 原野(京・桂)
谷・尼崎(京・成安女)2(1515—71)0 梶本・森岡(奈・添上)

▼決勝

佐伯 2(1515—49)0 谷尼崎

▼準決勝

佐古谷 2(1515—57)0 牧井上野
谷尼崎 2(1515—85)0 焼田宮田

◆男子団体

☒第15回東海実業団選手権大会
(10月25日・名古屋電気工業高喬徳館ジム)

▼一回戦

日本電装(愛知) 3—1 日本鋼管水(静岡) 清
○角川 2(1515—68)0 柳崎川尾
荒井本山 1(6117—151515)2 森永豊島○
○森川 2(1515—111)0 豊島
○荒井 2(1515—53)0 柳川
三菱重工名古屋(愛知) 3—1 住友化学工(愛知)
○中橋 小椋 2(1515—41)0 猪飼加藤
加藤藤 1(11715—151512)2 竹足中立○
○泉 2(1515—39)0 加藤
○小松 2(1515—76)0 青木
名古屋鉄道(愛知) 3—0 トヨタ工業高等学園(愛知)
○伊樋口 村2(1515—41)0 鈴木奥
○後藤 沢井 2(1515—25)0 牛丸吉本
○高橋 2(1515—83)0 鈴木
豊田自動職機(愛知) 3—1 東芝機械(静岡)
○武田 岡2(1515—115)0 山崎長谷川
○深潮 井2(1515—55)0 大島大塚

▼準々決勝

○正岡 2(1515—86)0 大塚
○松島 2(151015—71510)1 森川
○小林 島2(1515—103)0 荒山井本
○安沢 島2(1515—73)0 森角川
トヨタ自動車(愛知) 3—0 日本電装(愛知)
○中橋 2(1515—14)0 岡地村
加藤波 0(35—1515)2 山崎日下部○
三菱重工名古屋(愛知) 3—2 小糸製作所(静岡)
中橋 0(22—1515)2 日下部○
○泉 2(1515—112)0 岡村
○松波 2(1518—416)0 山崎
名古屋鉄道(愛知) 3—0 三菱油化四日市(三重)
○後藤 高橋 2(1715—155)0 北村大倉
○伊樋口 村2(1515—27)0 服一部木
○樋口 2(1515—76)0 一木
新日本製鉄名古屋(愛知) 3—1 豊田自動職機(愛知)

▼準決勝

○奥野哲省 2(151514—61217)1 正岡武田
○千金谷 葉2(1815—1610)0 深潮井
奥野 1(1015—1591515)2 武田○
○奥野 2(1515—1161515)1 潮
トヨタ自動車 3—0 三菱重工名古屋
○牛小林 島2(1815—1511)0 中橋
○松安沢 島2(1515—000)0 加藤波
○牛島 2(1515—030)0 泉
名古屋鉄道 3—1 新日本製鉄名古屋
高後藤 橋0(1216—1517)2 菅山井本○
○伊樋口 村2(1515—210)0 奥野哲省
○樋口 2(1515—122)0 千葉
○伊村 2(1515—570)0 管井

▼三位決定戦

新日本製鉄名古屋 3—0 三菱重工名古屋
○奥野哲省 2(1515—129)0 中橋
○千金谷 葉2(151512—1010151)1 松波小松
○奥野哲 2(1515—119)0 中橋

◆女子団体

▼一回戦

トヨタ自動車(愛知) 2—1 豊田自動織機C(愛知)
○小林 本沢 2(1518—516)0 鈴木富居
竹中 1(3511—1111118)2 富居○
○橋本 2(1212—99)0 鈴木
本州製紙富士B(静岡) 2—0 新日本製鉄名古屋(愛)
○細小路 藤2(1515—32)0 菅原福田
○鈴木 2(1111—47)0 菅原
豊田自動織機B(愛知) 2—0 本州製紙富士A(静岡)
○工藤 紺野 2(1515—95)0 嶋石川
○工藤 2(1112—810)0 嶋
豊田自動職機A(愛知) 2—0 日本電装(愛知)
○大橋 辻田 2(1515—24)0 竹本庄司

▼決勝

トヨタ自動車 3—1 新日本製鉄名古屋
○安沢 2(1515—31)0 高橋
松島 1(151511—1891515)2 伊村樋口○
○小林 牛島 2(1515—21)0 高井沢橋
○松島 2(1515—113)0 樋口

○辻　田　2（1111—02）0　竹　本

▼準決勝

トヨタ自動車　2—0　本州製紙富士B

○小　橋　本　2（1515—71）0　細小路　加藤

○竹　中　2（1111—42）0　鈴　木

豊田自動織機A　2—0　豊田自動織機B

○辻　田　2（111110—1412）1　工　藤

○大　橋　田　2（1515—116）0　工　藤　紺　野

豊田自動織機A　2—0　豊田自動織機B

▼三位決定戦

豊田自動織機B　2—0　本州製紙富士B

○紺　野　2（1111—60）0　加　藤

○工　藤　野　2（1515—62）0　細小路　加藤

▼決　勝

豊田自動織機A　2—0　トヨタ自動車

○大　橋　田　2（1515—1015）1　小　沢　本

○大　橋　2（1112—39）0　橋　本

◇45年度関東学生新人戦（12月2—10日、目黒体育館ほか）

【Aブロック】

◆男女団体戦

▼一回戦

日大B　3—1　慶　大

立　大　3—2　明　大

日体大　3—0　中大B

早　大　3—0　関学大

▼二回戦

法　大　3—0　日大B

中大A　3—0　立　大

日体大　3—1　青学大

日大A　3—1　早　大

▼準決勝

法　大　3—0　中大A

日大A　3—2　日体大

▼決　勝

法　大　3—2　日大A

○浜　谷　2（1515—20）0　涌　井

岡　田　0（147—1515）2　遠　藤○

○田　草　所　2（151115—91512）1　村　遠　谷　藤

斉　藤　田　1（6159—15215）2　舟　涌　山井○

○田　所　2（1515—39）0　舟　山

◆男子シングルス

▼準々決勝

遠　藤　好（日大）2（151511—4715）1　丸　山（中大）

浜　谷（法大）2（1515—960）0　草　島（法大）

二　上（早大）2（1515—460）0　小　泉（中大）

田　所（法大）2（1515—1230）0　相　川（中大）

▼準決勝

遠　藤　2（1515—109）0　浜　谷

二　上　2（1815—144）0　田　所

▼決　勝

遠藤好　2（1515—730）0　二　上

◆男子ダブルス

▼準々決勝

草　田（法大）所　2（1515—780）0　上　今（日体大）　井　田

二　本（早大）間　上　2（1515—6100）0　高　橋　三（関学大）　野

小　尾（中大）泉　崎　2（1515—1130）0　桐　牛（日体大）　生　渡

斉　岡（法大）藤　田　2（1815—1691）1　村　遠（日大）　谷　藤

▼準決勝

草　田　所　島　2（1518—8130）0　本　二　間　上

小　尾　泉　崎　2（1515—1058）1　斉　岡　藤　田

▼決　勝

草　田　所　島　2（1515—970）0　小　尾　泉　崎

◆女子団体戦

▼一回戦

日女体大B　3—1　昭和女大

日体大　3—1　日女体大B

東女体大　3—0　杉野女大

▼二回戦

青学大　3—0　日体大B

日女体大A　3—0　慶　大

▼準決勝

日体大A　3—1　東女体大

日女体大　3—0　青学大

▼決　勝

日体大　3—2　日女体大

○堀　川　2（1112—290）0　池　田

横　尾　0（24—1111）2　横　田○

広　堀　沢　川　1（515—151115）2　塩　池　崎　田○

○中　横　田　尾　2（1512—9715）1　保　横　坂　田

○中　田　2（1211—1161）1　塩　崎

◆女子シングルス

▼準々決勝

池　田（日大）女体　2（111110—6612）1　堀　川（日体大）

名　和　女体大（東）2（1111—28）0　横　田（日女体大）

塩　崎（日女体大）2（1111—47）0　栗　原（東女体大）

保　坂（日女体大）2（1112—510）0　中　田（日体大）

▼準決勝

塩　崎　2（1111—6811）1　保　坂

名　和　2（1111—5511）1　池　田

▼決　勝

塩　崎　2（1111—32）0　名　和

堀　川　広　沢　2（1515—38）0　指　川　村、井（日女体大）

◆女子ダブルス

▼準々決勝

池　田、塩　崎（日女体大）2（1515—811）0　漆　山　畑　崎（青学大）

中　横　田　尾（日体大）2（1515—713）0　名　和、栗　原（東女体大）

保　坂、横　田（日女体大）2（151018—121515）1　遠　藤、中　田（日体大）

▼準決勝

塩　池　崎　田　2（15515—3157）1　堀　川　広　沢

中　横　田　尾　2（151215—61511）1　保　坂　横　田

▼決　勝

塩　池　崎　田　2（1515—310）0　中　横　尾　田

【Bブロック】

◆男子団体戦

▼一回戦

神奈川大B　3—0　学習院大A

千葉大　3—0　富士短大

東京学芸大　3—0　玉川大

専　大　3—0　東洋大B

東京理大　3—0　都立大

東　大　3—1　独協大

神奈川大A 3－2 学習院大B
東洋大 3－2 青学大
大東大B 3－0 東京経済大

▼二回戦
大東大A 3－1 神奈川大B
千葉大 3－1 足利工大
東学大 3－2 東電大
日体大 3－2 専 大
東京理大 3－1 成蹊大
東 大 3－0 立 大
大東文化大 3－0 明学大
神奈川大A 3－0 東洋大A

▼準々決勝
大東大A 3－1 千葉大
日体大 3－2 東学大
東京理大 3－0 東 大
神奈川大A 3－0 大東大B

▼準決勝
大東大A 3－1 日体大
神奈川大 3－1 東京理大

▼決 勝
日体大 3－0 神奈川大

○安 彦 2（18 15 15－16 11 8）1 小 松
○金 田 2（15 15－12 10）0 渡 辺
○平野羽 2（15 15－3 3）0 野尾上崎 ○赤

◆男子シングルス

▼準決勝
○金田（日体大）2（15 15－4 7）0 秦野京理大（東）
○斉藤（東学大）2（15 21 15－8 15 6）1 安彦（日体大）

▼決 勝
○斉 藤 2（15 15－6 12）0 金 田

◆男子ダブルス

▼準決勝
○佐藤立野（専大）2（15 12－9 15）1 右岡喜勢（大東大）
○横田地下松（都立大）2（17 15－14 3）0 今泉鹿島（成蹊大）

▼決 勝
○佐藤立野 2（15 8－7 8）0 横田地下松

◆女子団体戦

▼一回戦
○富士短大 3－0 昭和女大B
○お茶の水大 3－0 昭和女大A
○日女体大 3－0 東女体大B

▼二回戦
○共立女大 3－1 富士短大
○東女体大A 3－1 成蹊大
○玉川大 3－0 お茶の水大
○日女体大 3－0 津田塾大

▼準決勝
○東女体大A 3－0 共立女大
○日女体大 3－0 玉川大

▼決 勝
○日女体大 3－0 東女体大A

○三上 2（11 11 9－0 8 11）1 横島

◆女子シングルス

○三原 2（11 11－5 7）0 野沢
○津久井 2（15 15－1 1）0 大横崎島
○三原（日女体大）2（11 12－6 10）0 川島（国士館大）

▼準決勝
○宮地（明学大）2（11 11－8 9）0 細川（家政大）

▼決 勝
○三原 2（11 11－3 7）0 宮地

◆女子ダブルス

▼準決勝
○宮島 崎地 2（15 15－10 7）0 吉南川場
○南吉場（早大）川 2（15 5－13 4 15）1 白松石田（明大）

▼決 勝
○宮島崎地（明学大）2（15 15－8 7）0 三原、中島（日女体大）

☒第14回香川県対岡山県親善競技会（9月27日・岡山市山陽学園体育館）

◆教員
○岡山 3－0 香川
○三柳本 2（15 15－11 3）0 宅藤原新名
○柳本 2（15 15－4 5）0 新名
○三宅 2（15 15－4 8）0 藤原

◆一般男子
○岡山 2－1 香川
○芳上野 2（15 15－2 11）0 吉高尾川
○森口 2（15 15－11 4）0 杉上

◆高校男子
○香川 3－0 岡山
○日福崎下 2（15 15－5 4）0 田村松井
○横田 2（15 15－7 1）0 藤原
○日下 2（15 15－4 6）0 松井

◆一般女子
○香川 2－1 岡山
○山本川 2（15 15－5 1）0 児玉光畑
○山本み 2（11 11－6 3）0 木村
山本真 0（8 9－11 11）2 児玉○

上野 0（16 11－17 15）2 吉川○

◆高校女子
○香川 2－1 岡山
○川東 2（11 11－4 7）0 剛迫
森川東 1（13 15 12－15 11 5）2 吉田○

○森 2（11 12 10－3 10 12）1 石田

TO THE READERS IN FOREIGN COUNTRIES

"The Badminton World" made its first appearance in August '69, in commemoration of the glorious Uber Cup defense by Japanese women's team. Since then, we have been sending this monthy magazine regularly to all the organisations affiliated with IBF (International Badminton Federation).

The other day, we received a letter from Mr. Gabriel Chang of Everett, Ma., USA. He says that he and his friends are enjoying the copies, and that he wants to subscribe them on a month-to month basis. Thus, he became our honorable first subscriber in foreign countries.

But unfortunately, very few of our oversea 'probable' readers can understand Japanese language.

In fact, a Mrs. S. V. Haley, Honorary Secretary of Awali Badminton Club of Bahrain, Arabian Gulf, tells us none of her club members can appreciate Japanese, and she advised us "it would therefore be sensible to take our club off your mailing list."

Frankly speaking, what she pointed out is she headache for us. We sometimes dream if we could publish 'English edition', but we have too many problems to do so, you know.

What should we do? Thus we have come to a decision to begin brief news service in English on the last page of this magazine.

We sincerely hope this little column will be of help for you to understand the badminton in Japan.

Thank you.

Chief Editor
The Badminton World

≪表紙≫

竹中悦子



ニックネームが〝親分〟だれがつけたか、なるほど、コンビの相沢とならぶと、それらしい貫禄がある。

二人のいるところで、どちらへともなく質問を向けると、まず、口を切るのが竹中さん。といって、別に出しゃばりというのではなく、よく考え、きわめて慎重に、ことばを選びながら話す。

相沢さんは、それを、ニコニコしながら眺め、聞いている。まったく似合いのコンビだ。

念願かなって、ついに全日本のタイトルへ。男子の体操と同じで、バドミントンの女子は、世界で勝つより、国内の競争に勝つことがむづかしいくらい。おめでとう。

どちらかといえば内向的で、いったん決めたら、テコでも動かぬところがあるらしい。考えすぎてスランプなども……悦ちゃん、人生は長いよ。

銅以上のメダルをとった。

写真グラフの一部は、できればカラーにしたい。乞うご、期待。

≪編集後記≫

次号から最終ページには〝英語版〟を入れることにした。海外に、日本を知らせるには、このくらいのサービスも必要だろう。というわけで、本号は上記のとおり、ごあいさつだけをのせた。

海外といえば、おかげさまで諸国の雑誌やパンフレットが、あいついで舞い込んでいる。近いうち、ご紹介したい。

さて、次号はアジア大会の特集。世界選手権以上の密度の濃い競争の中で、日本は三つの金メダルに輝き、参加組全員が、

【バドミントン界】 第18号
昭和46年1月25日 印刷
昭和46年2月1日 発行
編集兼発行人 川端 昇市
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一(内線)二五一 四六七・七〇九五(直通)
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都中央区八丁堀二の八の二 有限会社 和田印刷所
定価 一部 百円

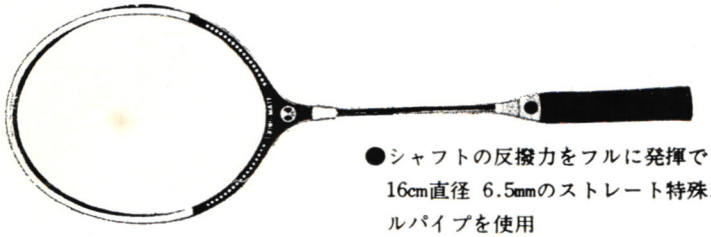
反撥力 抜群!

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

サンバタ
株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話(377)4401(代表)

月刊「バドミントン界」第十八号
昭和四十六年二月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日　第三種郵便物認許
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円



人間は何かを見失っているようです

スコーレ

●scholeギリシャ語●leisure(余暇)rest(休息)ease(ゆったり)の同意語school(学問)の語源—岩波哲学辞典より
●古代ギリシャ人はスコーレをすべての文化の根源と考えていた●スコーレは最も人間的な時間人間的な生活

人間も都市も砂漠化している現代

あなたにとって幸福とは、いったい何でしょう。GNP世界第2位の裕福さでしょうか。ヒッピーたちのもっている、あの自由な精神がそうでしょうか。この索漠とした現代、とにかく考えさせられます。

豊かで、しかも人間らしい生活を

スコーレとは、物質文明と精神文明の調和。つまり、豊かな人間社会のための環境づくりと豊かな人間生活のための物づくりにあります。テイジンが拡大していく、豊かでしかも人間性を尊重した世界です。

人間を愛し
人間を考え
人間に帰ろう
スコーレ
テイジン
TEIJIN 帝人株式会社

●スコーレを拡大するテイジン

天然資源開発　アフリカや南北アメリカで低硫黄石油を開発中。日本のエネルギー資源確保のため
石油化学事業　世界中の合繊生産に貢献。ポリエステルをはじめ、各種の合繊用原料の生産と輸出
合成繊維事業　豊かな生活環境、新しい生活行動パターンの創造。ファッションから産業資材まで
海外事業　人類の衣生活充実。世界10余ヵ国へ進出。ポリエステルなどの生産技術で各国に協力
情報産業　知識社会・情報社会の拡大。ビデオ、X線、コンピューターのベースフィルムを生産
プラスチック事業　未来の生活を支えるエンジニアリング・プラスチックや汎用プラスチックの開発と生産
食品事業　健康社会の推進。理想的な食生活のための食品づくり。牛肉エキス、植物蛋白など
住宅関連事業　人間性を尊重した住宅空間、創造的な空間の建設。ハウジングからレジャー分野まで